

第4章 人工遺物

調査では、貝層内及び貝層下より遺物が出土している。遺物には、縄文土器をはじめ弥生土器、土師器、須恵器、中世陶器、陶器等の土器、石器、貝製品の人工遺物の他に貝類、獣骨、魚骨等の自然遺物が出土している。自然遺物については別冊第102集で説明するため、この章では人工遺物のみを扱う。

1. 縄文土器 (第70～101図)

縄文土器は1層から45層のクロボク層及び貝層より出土している。ここでは出土層位ごとに説明する。

A. 1層出土土器 (第70図1～第71図42)

1は縄文K式の深鉢の口縁部破片で、屈曲する口縁に縦位に隆帯を貼り付け、隆帯には連続した刻目が入れられている。

2～8は元住吉山Ⅰ式の深鉢である。2～6は口縁部が屈曲し、屈曲部に1条の沈線が入れられて、2以外は屈曲部に擬縄文が認められる。また、3には突起が付く。7は胴部破片で、沈線列の間に細かな刻目が施されている。8は胴部破片で、横位の沈線下に斜行沈線列が施されている。8は時期が遡る可能性がある。

9は元住吉山Ⅱ式の深鉢で、口縁部は屈曲して横位の凹線が2条入れられている。凹線列の上下には連続した刻目が施されている。

10・11は宮滝式の深鉢である。10は口縁部破片で、3条の凹線文が横位に施されている。11は胴部破片で、横位の凹線が2条認められている。

12は縄文土器の深鉢である。波状口縁をなし、口縁沿いに2条の波状縄文が入れられている。宮滝式に属するものと思われる。

13～27は粗製深鉢である。口縁部は直立や外反するもの(13～23・25)、内湾するもの(24・26)や、27のように口縁部で屈折して波状口縁をなすものがある。

28～31は注口土器である。28は注口部破片である。29・30は頸部破片で、頸部は沈線が入れられている。31は胴部破片で、胴部は影らむ。

32～34は鉢・浅鉢である。32・33は鉢の口縁部と思われ、32は波状口縁をなす。34は強く開く器形をなす浅鉢である。

35～42は底部破片である。小径の平底で僅かに外周がある。39の底面には網代痕が認められる。

1層は地山上のクロボク層であるが、最初の貝層形成後もクロボク層は露出し、生成している。このため、貝層形成後の宮滝式まで土器が重複している。

B. 2層出土土器 (第71図43～第77図252)

43～57は加曾利BⅡ式の深鉢である。43～46は同一個体の破片と思われるものである。口縁部はやや内湾し、8字状の突起が付く。口縁は横位の沈線が入られ、端部には縄文が、屈曲部には2列の沈線間に連続刺突文が施されている。体部には3列の短沈線が縦位に、横位と弧状の沈線も入られている。47～49は屈曲する口縁部破片で、口縁には2条の沈線と縄文が施されている。50・51は体部破片で、逆し字状の擬縄文の磨消縄文(50)や縄文に沈線が施されている。52・53も体部破片で、横位の磨消縄文帯が1条みられる。54は器形がソロバン玉状に屈折する口縁部付近の破片である。屈折部には連続刻目が入られ、更に入れられた刺突文を中心に沈線が弧状や直線的に延びる。沈線より上は磨消縄文になっている。55は体部破片で、横位の沈線下に3条沈線の磨消縄文が弧状に施されている。56・57は体部破片で、磨消縄文の一部が認められる。58は口縁部が外反する壺形に近い。59は口縁部が外反し、端部には連続刻目が入られている。口縁部には3条の沈線と連続刻目が入られている。60は口縁端部に連続刻目が入られ、口縁部には2条の沈線が認められる。

61～71は規塚K式の深鉢である。61・62はく字状に屈曲する口縁部で、屈曲部には隆帯を巡らしている。口縁には短い刻目隆帯列を貼り付けている。63もく字状に屈曲する口縁部破片で、口縁には2条の刻目隆帯が巡らされている。64は2条の刻目隆帯を横位に巡らしている。65～71は2～3条の沈線が横位に施された体部破片である。沈線間は無文で、なかでも65は縦位の沈線で横位の沈線を区切っている。これら体部破片は、後続する元住吉山Ⅰ式の可能性もある。

72～103は元住吉山Ⅰ式の深鉢である。72・73は波状口縁をなすものである。72は口縁部が屈曲し、波頂部には縦位の短沈線が入られた突起が付けられている。屈曲部には突起から延びる1条の沈線が入られ、そこに擬縄文が施されている。73は口縁部がく字状に屈曲し、波頂部には突起が付けられている。突起は頂部が窪み、擬縄文の地文に縦位の短沈線が入られている。屈曲部には突起から延びる1条の沈線が入られ、そこに擬縄文が施されている。74～98は平縁の口縁部のものである。74・78は口縁部が屈曲し、擬縄文が施された突起が付けられている。屈曲部には突起から延びる1条の沈線が入られ、そこに擬縄文が施されている。75も同様であるが、屈曲部の沈線が突起部を横切って2列で入れられており、その間は擬縄文が補填されている。76は突起部の下部が短沈線で区切られるが、屈曲部は無文である。77・79・80は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入られて擬縄文(80は縄文)が施されている。81は口縁部に突起が付き、端部付近や突起に縄文が施されているが沈線は認められない。82は口縁部が屈曲し、縄文が施された突起が付けられている。屈曲部は2条の沈線を入れて突出させており、そこに縄文を施している。83は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入られ、その下に連続刻目が入られている。84は突起が付き、85・86は突起のみられない口縁部で、屈曲部には1条の沈線が入られ、その下に連続刺突文が入られている。87・88は突起付きの口縁部で、屈曲部には突起から延びる1条の沈線が入られている。89～98は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入られている。99～103は胴部破片で、沈線と擬縄文が施されている。

104～135は凹縁土器の深鉢である。104は屈曲する口縁部に3条の凹縁が施され、その下に巻貝による刺突文と扇状圧痕が施されている。105は波状口縁の破片で、波頂部から垂下する短沈線が入られ、地文の擬縄文の上に3条の凹縁が左右に施されている。口縁の屈曲部には巻貝の刺突があ

り、そこから弧線状に凹線が2条施されている。106～108は凹線の施された口縁部破片で、凹線上に粘土塊が貼り付けられ、そこに扇状圧痕が入れられている。109も凹線の施された口縁部破片で、凹線上に巻貝刺突が入れられている。110～113は凹線の施された口縁部破片で、幅広い凹線内にナデられている。114は3条の凹線が施された屈曲する口縁部破片で、屈曲部には連続刻目が入れられている。115・116は口縁部がく字形に屈曲し、口縁には3条の凹線が施されている。117は口縁部が僅かに屈曲し、口縁には2条の凹線が施されている。口縁端部は僅かにナデ窪められている。118～120は内湾する波状口縁の破片で、2～3条の凹線が入れられている。121～129は2～3条の凹線が入れられた口縁部破片で、口縁は直立や内湾している。130は口縁部が屈曲して縁帯をなし、口縁には2条の凹線が施されている。131は口縁部付近の破片で、巻貝による刺突と凹線が入れられている。132～135は2～3条の凹線が巡らされた胴部破片であり、134は巡らされている凹線に縦位の短凹線が入れられている。破片のみでは凹線文土器の型式区別は難しいが、110～114は元住吉山Ⅱ式、104・106～108・115・116・118・121・132・133は宮滝式、その他は伊川津式と思われる。

136はいわゆる下別所式の深鉢である。口縁はやや外反し、擬縄文地に4条の半截竹管文が横位に施されている。

137は中部高地系の深鉢である。口縁は屈曲し、環状に刻目隆帯が巡る突起が付く。口縁には平行沈線による文様帯が施されている。

138～141は上ノ段式の深鉢である。138は屈曲する波状口縁で、口縁部は肥厚されている。口縁部には2条の沈線、その下には羽状沈線がみられる。139は口縁部が屈曲し、口縁には2条の沈線、その下には羽状沈線がみられる。140・141は胴部破片であり、横位の沈線下に羽状沈線が施されている。

142～195は粗製深鉢である。口縁部は直立や外反するもの(142～151・153・154・156～172・175・178・180・181・183・187～193・195)、内湾するもの(152・155・179・182・184～186・194)や、波状口縁をなすもの(173・176・177)がある。

196～204は鉢・浅鉢である。196は口縁部が内湾する浅鉢で、口縁には突起が付く。突起から左右に延びる1条の沈線が入れられ、突起及び沈線下に縄文が入れられている。197は体部破片で、沈線区画内に擬縄文が補填されている。198は屈曲する口縁付近の破片で、3条の凹線間に連続刻目が入れられている浅鉢である。199は外反する波状口縁部で、口縁には3条の浅い凹線が入れられている。200は口縁端部が肥厚されたものである。201は内湾する櫛描文土器の鉢で、口縁部には2条の櫛描文が横位に入れられている。202～204は口縁部がく字形に屈曲する浅鉢である。これらは元住吉山Ⅰ式(196・197・202～204)、元住吉山Ⅱ式(198・199)、宮滝式(201)と思われる。

205～211は注口土器である。205は強く窄まる頸部である。206は強く張り出す胴部で、磨消縄文が施されている。207は頸部付近の破片である。208は強く張り出した胴部で、沈線と擬縄文が施されている。209も強く張り出した胴部に沈線と縄文が施されている。210・211は注口部破片である。これらは元住吉山Ⅰ式頃のものと思われるが、206は中部高地系のものである。

212は吊手土器の吊手部破片である。吊手部は磨消縄文が入れられて頂部で広がり、円形の突起が付いている。後期中葉のものであろう。

213～216は深鉢の胴部破片である。胴部は比較的強く膨らんでいる。

217~248は底部破片である。底部は全体的に小径で、底部から直に立ち上がるものや平底で僅かに外周があるものなどがみられる。底面は網代痕が認められるもの(218・219・236・237)や凹み底(224・226・231・241・242・244・245・248・249・251・252)、木葉痕(238)がある。

2層は1層(クロボク層)上に形成された貝層であるが、1層と混ざっているものと思われる。このため、出土土器も官滝式まで混在している。

C. 3層出土土器(第77図253~第78図283)

253は八王子式の深鉢である。口縁部はやや内湾する波状口縁で、体部はやや括れる。口縁は後をなして縁帯を有している。

254は規塚K式である。く字状に屈曲する口縁部で、縁帯を巡らしている。口縁には短い刻目隆帯列を貼り付けている。255・256は沈線の入られた胴部破片で、255は4条の沈線列で胴部文縁帯をなしているが、その沈線列を2列のノ字状の短沈線で区切っている。

257は加曽利B式の深鉢の口縁部破片である。大きな波状口縁で、口縁部には羽状沈線が施されている。端部には連続刻目が入れている。

258は一乗寺K式の注口土器の肩部破片である。肩部は段をなしている。肩部上にはノ字状の隆帯が貼り付けられ、沈線と擬縄文が施されている。

259~275は元住吉山I式の深鉢である。259は波状口縁をなすもので、口縁部は屈曲し、頂部が窪む突起が付けられている。屈曲部には突起から延びる1条の隆帯が貼り付けられ、そこに縄文が施されている。260は内湾する口縁部に1条の沈線を巡らし、その上から口唇にかけて擬縄文を施している。261~264は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入れられて擬縄文(260・261)や縄文(263・264)が施されている。263は波状口縁である。265は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入られ、その下には連続刺突が入れている。266~273は口縁部の屈曲部に1条の沈線が入れている。266は波状口縁である。274・275は口縁部が屈曲するが、屈曲部には沈線が入れていないものである。

276~282は凹線土器の深鉢である。276は凹線の施された口縁部破片で、幅広の凹線内がナデられている。277は3条の凹線が施された屈曲する口縁部破片である。278は凹線の施された口縁部破片で、凹線上に粘土塊が貼り付けられ、そこに扇状圧痕が入れている。279は凹線の施された胴部破片で、凹線上に粘土塊が貼り付けられ、そこに扇状圧痕が入れている。278・279は同一個体の破片と思われる。280は凹線の施された口縁部破片で、凹線上に扇状圧痕が入れている。281・282は2~3条の凹線が入れた口縁部破片である。これらの土器のうち、276は元住吉山II式、それ以外は官滝式と思われる。

283は小径の底部破片で、底部から斜めに立ち上がっている。

3層は2層上に形成された貝層であるが、土器の混在が認められる。

D. 5層出土土器(第78図284~第79図350)

289は称名寺式の可能性のある深鉢である。肥厚された口縁部に縄文と沈線が入れている。

284~288・290・291・295・336は八王子式の深鉢である。284は波状の口縁部が屈曲して縁帯をなし、縄文地の縁帯部は円形の窪みを中心に左右に弧状の沈線が連なっている。285は屈曲する口縁部に横位の磨消縄文帯が入れられ、その上に沈線と刺突列が端部方向へ延びている。286は内湾する口縁部に弧状沈線列が入れられている。287・288は屈曲する口縁部の縁帯部に縄文が施され、その上に沈線が2条横位に入れられている。290は口縁部が外反し、胴部に沈線で区切られた磨消縄文帯がみられる。291は胴部破片で、胴部は横位に磨消縄文帯があり、その下の沈線が延びてZ字状に縄文帯を区切っている。295は3条の沈線が施されている。336は口縁部はく字状に屈曲し、口縁及びその下には磨消縄文が施されるが、一部縦位に縄文帯がみられる。

292~294は加曾利B式の深鉢と思われるものである。292は波状口縁で、口縁部には斜行沈線が施され、端部には連続刻目が入れられている。293・294は胴部破片で、胴部は括れて1条の沈線が入れられ、その上下に斜行沈線が施されている。

296は鯉塚K式の深鉢である。口縁部はく字状に屈曲し、口縁には短い刻目隆帯列を貼り付けている。

297~300は元住吉山I式前後頃の深鉢破片である。299はスコップ状の波頂部で、右には3状の沈線が延びている。298は屈曲する波状の口縁部破片で、屈曲部には連続刻目が入れられている。299は波状口縁の波頂部に巻貝の短沈線を入れ、その左右に1点刺突したのちにそこから沈線を延ばしている。300は口縁部が内湾し、沈線と擬縄文が施されている。

301~310は元住吉山I式の深鉢である。301は波状口縁をなすものである。口縁部は屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入れられている。302~310は口縁部が屈曲し、屈曲部には1条の沈線が入れられている。このうち305のみ屈曲部下に沈線が入れられ、沈線間に縄文?が施されているようである。

311~333は凹線文土器である。311~315は凹線の施された口縁部破片で、幅広の凹線内がナデられている。312の口唇には沈線が入れられている。316は内湾する波状口縁の破片で、波頂部には扇状圧痕が入れられ、口縁部には4条の凹線が施されている。317は口縁部に突起が付き、2条の凹線が施されている。318~325・327~331は2~4条の凹線の施された口縁部破片で、口縁部は328がく字状に屈曲するが、それ以外は内湾している。326は口縁部がく字状に屈曲し、屈曲部より下には凹線文が3条施されている。332・333は2~3条の凹線が巡らされた胴部破片であり、332は巡らされている凹線に対して縦位に刺突が3箇所入れられている。333は巡らされている凹線に対し縁土塊は貼り付けられ、そこに扇状圧痕が入れられている。破片のみでは凹線文土器の型式区別は難しいが、311~315・332は元住吉山II式、316は宮滝式、326は伊川津式、その他は宮滝式~伊川津式と思われる。

334はいわゆる櫛描文土器である。口縁は屈曲して縁帯をなし、そこに櫛描波状文を横位に巡らしている。後期末~晩期初頭のものと思われる。

335は上ノ段式である。335はく字状に屈曲する口縁で、口縁部に縦長の隆帯状突起が付く。突起には縦位に短沈線が入れられている。口縁部には磨消縄文が入れられ、その下には斜行沈線列が認められる。外面に朱が塗られている。

337~342は粗製深鉢である。口縁部は外傾もしくは外反するもの(337~339・342)、やや内湾するもの(340・341)がある。338には口縁端部に沈線状の窪みが認められる。

343~348は注口土器である。343~346は強く張り出す胴部で、343・344は沈線と連続刺突、345は

沈線と擬縄文、364は沈線と連続刻目が施されている。347・348は注口部破片である。これらは元住吉山Ⅰ式頃のものと思われる。

349・350は底部破片である。349は底部から直に立ち上がり、350は平底で僅かに外周がある。

5層は4層上に形成された貝層であるが、八王子式～伊川津式まで土器が混在している。

E. 6層出土土器（第80図351～397）

351～353・355は八王子式の深鉢である。351は波状の口縁部が屈曲して縁帯をなし、縄文地の縁帯部は円形の窪みを中心に左右に弧状の沈線が連なり、その横には2条の沈線が横位に入れられている。352・353は同一個体の破片と思われる。口縁部はく字状に屈曲し、口縁及びその下には磨消縄文が施されるが、一部縦位に縄文帯がみられる。355は胴部破片で、胴部は横位に磨消縄文帯がある。

354～359は上ノ段式である。335は口縁部破片で、口縁には磨消縄文帯がみられる。356はく字状に屈曲する口縁で、口縁部には2条の沈線が入れられ、その下には斜行沈線列が認められる。357は口縁部付近の破片で、屈曲部に2条の沈線を巡らし、上部は縄文、下部は斜行沈線が入れられている。358は体部破片で斜行沈線が入れられている。359は口縁部付近の破片で、羽状沈線が巡らされている。

360～371は元住吉山Ⅰ式またはその前後頃の深鉢破片である。360～364は口縁部に1条の沈線が入れられている。365は内傾する口縁部に3条の沈線が入れられている。366は体部破片で、3条沈線の上に刺突が2箇所入れられている。367は屈曲する口縁部付近の破片で、屈曲部に沈線、その上に弧線を入れている。368は波状口縁で、波底部に中央が窪む突起を付けている。口縁沿いには1条の沈線が巡らされている。369～371は口縁部がく字状に屈曲している。

372～389は凹線文土器である。372～378は凹線の施された口縁部破片で、幅広の凹線内がナデられている。372の端部には連続刻目が入れられている。379はく字状に屈曲する口縁の破片で、口縁部には3条の凹線が施され、屈曲部には肩状圧痕が入れられている。380～388は2～3条の凹線の施された口縁部破片である。389は胴部破片で、2条の凹線が巡らされている。これら凹線文土器は、372～378は元住吉山Ⅱ式、379は宮滝式、385・388は伊川津式、その他は宮滝式～伊川津式と思われる。

390・391は粗製深鉢である。390は口縁部がやや外反し、391は口縁部がやや内湾して端部に突起が付いている。

392は浅鉢である。器形はボウル形で、口縁端部はやや尖る。凹線文土器に伴うものと思われる。

393は注口土器である。長さが短い注口部の破片である。これは凹線文土器の頃と思われる。

394～397は底部破片である。395・396は底部から直に立ち上がり、397は凹底である。395の底面には網代痕が認められる。

6層は5層上に形成された貝層であるが、やはり八王子式～伊川津式まで土器が混在している。

F. 7層出土土器（第81図398～第82図438）

403は称名寺式と思われる深鉢である。外反する波状口縁で、波頂部は肥厚されており、内面に凹みが入れている。口縁部には隆帯が1条波頂部にかけて延びている。

400・402は加曾利B式と思われる深鉢である。400は口縁部が屈曲し、縁帯部は縄文が施されている。

402は体部破片で、2条の細い刻目隆帯の下には縄文が施されている。

398・399・401は一乗寺K式の深鉢である。398はく字状に屈曲した口縁部なし、屈曲部から隆帯がノ字状に延びている。胴部には磨消縄文帯がみられる。399も隆帯が口縁端部にノ字状に延びている。401は胴部破片で、磨消縄文帯が施されている。

404は元住吉山Ⅰ式である。口縁部はく字状に屈曲し、屈曲部は若干隆起して、その上に沈線が巡らされている。

405～423は凹線文土器の深鉢である。405は口縁部が内湾し、口縁には1条の凹線が入れられている。406は波状口縁で、口縁部は肥厚されて縁帯をなしている。口縁には波頂部上部に刺突を入れ、そこから左右に4条の沈線が入れられている。407～411・414は2～3条の凹線の施された口縁部破片である。412・413・415は凹線の施された口縁部破片で、幅広の凹線内がナデられている。416～422は胴部破片で、2～3条の凹線が巡らされている。これら凹線文土器は、412・413・415は元住吉山Ⅱ式、その他は宮滝式～伊川津式と思われる。ただし、406は晩期まで下る可能性がある。

424はいわゆる櫛描文土器の深鉢である。口縁に2条の櫛描文を施し、上は直線状、下は波状を横位に巡らしている。伊川津式に併行するものと思われる。

423・425は蛭塚B式の深鉢である。423の口縁部には3条の沈線が入れられている。425は沈線の下に連続刺突が入れられている。

426・427は上ノ段式の深鉢である。426は口縁部がく字状に屈曲し、屈曲部には突起が付く。口縁には沈線と縄文が施され、口縁下には羽状沈線が入れられている。427は体部破片で、1条の沈線下に斜行沈線が入れられている。

428～432は粗製深鉢である。428はやや内湾する口縁部破片である。429・431は口縁がやや外傾し、頸部が括れ胴部で膨らむ器形をしている。430は波状口縁をなす。432は口縁が屈曲している。

433・434は注口土器である。433は強く膨らむ体部破片である。沈線と縄文で磨消縄文帯を形成し、肩部には縦位に窪まされた瘤が2箇所付いている。434は長さが短い注口部の破片である。433は東北地方の瘤付土器と思われる。

435～438は底部破片である。435・436は凹み底で、437は底面に外周がある。438は比較的大径の底面である。

7層は6層上に形成された貝層であるが、一乗寺K式～蛭塚B式まで土器が混在しているが、中心となるのは後期後葉の宮滝式～伊川津式の時期である。

G. 8層出土土器（第82図439～第83図483）

439～448は加曾利B式の深鉢である。439は口縁の端部付近がやや内径し、そこに縦位の短沈線を施す。その下には刻目隆帯を2条、縄文と沈線を施している。440は体部破片で、2条の刻目隆帯と縄文が施されている。441はく字状に屈曲すると思われる口縁部に2条の沈線が入れられている。442は体部破片で、刻目隆帯の下には縄文が施されている。443はやや内湾する口縁部の屈曲部に沈線と連続刺突を入れ、口縁端部付近には沈線と縄文を施している。445は体部破片で羽状沈線が入れている。446～448は胴部破片で、4～5条の沈線が入れられて磨消縄文帯が構成されている。この

うち446は沈線列を区切るように、波状の区切り線が施されている。

449は元住吉山Ⅰ式の深鉢である。口縁部は内湾し、沈線が巡らされている。

450は晩期前葉の可能性のある深鉢である。内湾する口縁部に3条の沈線が入れられている。

451～463は凹線文土器の深鉢である。451は口縁部が外傾し、口縁にはなかがナデられた凹線が2条入れられ、そこに巻貝による刺突が入れられている。452・453は凹線がナデられている口縁部破片である。454はく字状に屈曲した口縁で、口縁部の縁帯には擬縄文が施され、そこに凹線が3条入れられている。455・456はく字状に屈曲した口縁で、口縁部に凹線が3条入れられている。457～463は胴部破片で、2～3条の凹線が巡らされている。457には2箇所扇状圧痕が入れられている。これら凹線文土器は、451～453・461は元住吉山Ⅱ式、457は宮滝式、454・460は伊川津式、その他は宮滝式～伊川津式と思われる。

464・465は櫛描文土器の深鉢である。464は口縁に2条の櫛描波状文を施している。465は口縁部に直線状の櫛描文を横位に巡らしている。伊川津式に併行するものと思われる。

466～472は粗製深鉢である。467～470はやや内湾する口縁部である。466・471・472は口縁がやや外傾する口縁部破片である。

474・475は注口土器の注口部破片である。475は長さが短い注口部の破片である。後期後葉のものと思われる。

476～483は底部破片である。476～479・482は凹底で、480・481は底に外周がある。

8層は7層上に形成された貝層であるが、加曾利B式～伊川津式まで土器が混在している。中心となるのは後期後葉の伊川津式期である。

H. 10層出土土器（第84図484～491）

484・485は元住吉山Ⅰ式の深鉢である。484は口縁部が屈曲し、沈線が巡らされている。485は胴部破片で、磨消縄文帯が入れられている。

486～490は凹線文土器の深鉢である。486は口縁部がく字状に屈曲し、口縁には凹線が3条入れられている。口縁部から胴部にかけて斜位に凹線が2条入れられている。487は波状口縁をなし、波頂部には粘土塊が貼り付けられ、そこに短沈線が入れられている。口縁は端部沿いに1条、平行して2条の凹線を巡らし、波長部の下には刺突が入れられた突出部を作り出している。体部には3条の凹線を巡らした文様帯を2列入れ、そこには短沈線のある粘土塊を貼り付けている。488は内湾する口縁部に3条の凹線を巡らせている。489は口縁沿いに1条の凹線を入れ、そこに刺突を入れている。490は外反する口縁部で、3条の凹線に刺突を入れている。

491は粗製深鉢である。口縁は真っ直ぐ立ち上がる。

492は注口土器の口縁部破片である。口縁は強く外反し、括れたところに1条の凹線が入れられている。

10層は9層上に形成された貝層である。元住吉山Ⅰ式が若干混ざるが、大半は伊川津式である。

H. 11層出土土器（第84図493～505）

493は元住吉山Ⅰ式の深鉢である。493は口縁部が屈曲し、突起が付けられている。突起からは沈線が左右に延びている。突起及び屈曲部には擬縄文が入れられている。

494は凹線文土器の深鉢で、口縁には凹線が2条入れられている。伊川津式のものと思われる。

495～501は櫛描文土器の深鉢である。495～499は内湾する口縁部で、495・496は横位に真っ直ぐのびる櫛描文間に櫛描波状文が入れられている。497～499は2条の横位に真っ直ぐのびる櫛描文が入れられている。501は口縁部が屈曲し、1条の櫛描波状文が入れられている。501は口縁部付近の破片で、斜位に櫛描文が入れられている。

502は粗製深鉢である。口縁は真っ直ぐ立ち上がる。

503～505は底部破片である。503は底面から斜めに立ち上がるもの、504は凹底、505は底に外周があるものである。

11層は10層上に形成された貝層である。土器は元住吉山Ⅰ式が1点混ざるが、大半は櫛描文土器である。これらは伊川津式に伴うものと思われる。

I. 12層出土土器（第84図506）

506は櫛描文土器の深鉢である。口縁部は屈曲し、1条の櫛描波状文が入れられている。

12層は11層上に形成された貝層である。櫛描文土器のみの出土で、おそらく伊川津式に伴うものと思われる。

J. 13層出土土器（第85図507～525）

507・508は伊川津式と思われる凹線文土器の深鉢である。507は波状口縁で、波頂部を中心に口縁沿いに1条の凹線を左右に延ばし、その下には1条の凹線が引かれている。波頂部から下へ巻貝による刺突が3箇所入れられている。508は口縁部破片で、3条の凹線が入れられている。

509～512は櫛描文土器の深鉢である。509はやや内湾する口縁部で、口縁沿いと少し離れた位置に直線状に櫛描文を施し、その間に櫛描波状文が入れている。510は櫛描波状文が入れられている口縁部破片、511は直線状と弧状に櫛描文が入れられている。512はやや内湾する口縁部破片で、半載竹管による波状文が3条施されている。これらは伊川津式に併行するものである。

513・515・516・519は下別所式の深鉢である。513は口縁部付近の破片で、若干の段を有している。口縁部には横位に半載竹管の押し引きが2条入れられている。515・516は口縁部破片で、擬縄文地に半載竹管で弧線や直線が引かれている。519は口縁部が屈曲し、そこに縄文が施されている。

514・517・518は下別所式と中部高地系の折衷土器と思われる深鉢である。514は波状口縁で、波底部には突起が付けられている。口縁部には波状に3条、直線状に2条の沈線が施されている。517は沈線の施された口縁部破片である。518は突起の付く口縁部破片で、突起の左右に沈線を引いている。

520・521は粗製深鉢である。521はやや内湾する口縁である。521は体部破片である。

521は注口土器の口縁部である。口縁はやや内湾しているが、体部へは強く屈曲している。

523～525は底部破片である。523は底面から斜めに立ち上がるもの、524は凹底、525は僅かに外周があるものである。

13層は12層上に形成された貝層である。土器は伊川津式に併行するものである。

K. 14層出土土器（第85図526～531）

526・527は伊川津式と思われる凹線文土器の深鉢である。口縁部はやや内湾し、口縁には凹線が2条入れられている。527は凹線と刺突の入れられた体部破片である。

528は櫛描文土器の深鉢である。上からみると口縁部形は円形ではなく、楕円形をしている珍しい器形である。口縁部は屈曲し、1条の櫛描波状文が入れられている。

529・530は粗製深鉢で、口縁は比較的真っ直ぐ立ち上がっている。

531は底部破片である。底には外周が認められる。

14層は13層上に形成された貝層である。凹線文土器と櫛描文土器、粗製深鉢で構成されており、伊川津式の特徴を示している。

L. 16層出土土器（第86図532～549）

532～543は伊川津式と思われる凹線文土器の深鉢である。532～534は口縁部がやや内湾し、口縁には凹線が2～4条入れられている。535は口縁部がく字状の屈曲し、口縁には凹線が2条入れられている。536は口縁が内湾し、口縁端部付近に1条の凹線がみられる。538～543は凹線の施された体部破片である。537には屈曲部付近に刺突が入れられている。

544～548は粗製深鉢である。544・546・548は口縁部が内湾し、545は口縁が比較的真っ直ぐ立ち上がって、端部は若干厚い。547は口縁が斜位に延びる。

549は底部破片で、外周が認められる。底面は凹底である。

16層は15層上に形成された貝層である。凹線文土器と粗製深鉢が認められるが、櫛描文土器は出土していない。伊川津式の特徴を示している。

M. 17層出土土器（第86図550～第87図573）

563・564は後期初頭の称名寺式と思われる口縁部破片である。波状をなして端部には連続刻目が入れている。口縁には磨消縄文がみられる。

550～552は晩期前葉の鰐塚B式の深鉢である。550は波状口縁で、口縁部は縁帯をなしている。口縁には沈線が3条、その下に連続刺突が入れられている。551も口縁部破片で、口縁には沈線が3条、その下に連続刺突が入れられている。552は波状口縁で、口縁部が僅かに段をなしている。口縁には沈線が2条入れられている。

553は元刈谷式の深鉢で、口縁に微かだが縁帯部がみられる。そこに2列の沈線を短めに巡らせ、沈線を挟んで連続刺突が3列巡らされている。

554～557・561は櫛描文土器の深鉢である。口縁は屈曲して縁帯をなしている。口縁には1条の櫛描文が直線状（554）や波状（555～557）に入れられている。

562は大洞BⅡ式の深鉢である。波状口縁で、口縁はやや内湾する。口縁から体部にかけて幾何学文様の磨消縄文が施されている。

558～560・565～569は粗製深鉢である。558・559・567は口縁部が屈曲するもの、559は段をなすのものである。565・566は口縁部が外反し、頸部は括れて胴部で膨らむ器形である。口縁部は小波状をなし、波状部に連続刻目が入れられている。568は口縁部が肥厚されている。569は口縁がく字状に屈曲し、端部は連続して撫で窪められている。

570～573は底部破片である。570・571・573は若干外周が認められる。572は底からほぼ直線的に立ち上がっている。

17層は16層上に形成された貝層である。沈線・刺突文土器と櫛描文土器、粗製深鉢が認められ、蜆塚B式の特徴を示している。

N. 18層出土土器（第88図574～594）

574・575は蜆塚B式の深鉢である。574は口縁に沈線が2条、その下に連続刺突が入れられている。575は口縁に沈線で弧線が2段に引かれ、その下に連続刺突が入れられている。

576～578は櫛描文土器の深鉢である。576は口縁に波状の櫛描文が2条入れられている。577は体部破片で、櫛描波状文が入れられている。578は半截竹管による波状文であるが、施文手法が同じであるためここに含めた。口縁に2条の波状文が入れられている。

579は寺津式と思われる深鉢である。口縁部に縄文が施されている。

582・585～589は粗製深鉢である。582・585は口縁部が内湾し、端部は肥厚されている。586・587は口縁部がやや内湾するもので、588は口縁部が直線状に延びている。588には補修孔が認められる。589は体部破片である。

580・581・583・584・590は浅鉢の破片である。580・583・584は口縁部が外反し、580には端部に突起が付く。581は口縁部が若干内湾し、連続刻目が入れられている。590は外方に強く開く器形をなし、僅かだが波状をなしている。口縁には櫛描文が横位に2条直線上に引かれ、その間に連続山形に引かれた櫛描文が入れられている。

591～594は底部破片である。591は凹底、592～594は若干外周が認められる。

18層は17層上に形成された貝層である。沈線・刺突文土器と櫛描文土器、粗製深鉢、浅鉢が認められ、これらは蜆塚B式と併行するものと思われる。

O. 19層出土土器（第88図595～602）

595～598は伊川津式と思われる凹線文土器の深鉢である。595～598は口縁部がやや内湾し、口縁には縄文が施され、そこに横位に2条、その下に連続した弧状に凹線が入れられている。598は凹線の施された体部破片である。

599・600は櫛描文土器の深鉢で、口縁部は屈曲して1条の櫛描波状文が入れられている。

602は粗製深鉢である。口縁が比較的真っ直ぐ立ち上がっている。

601は浅鉢である。口縁は外反し、端部には突起が付いている。

19層は10層上に形成された貝層である。凹線文土器と櫛描文土器、粗製深鉢、浅鉢が認められ、伊川津式～蜆塚B式の頃と思われる。

P. 20層出土土器（第89図603～609）

603・604は規塚B式の深鉢である。603・604は波状口縁で、口縁部は縁帯をなしている。口縁沿いには沈線が2条、その下には横位に沈線が2条入れられている。

606は粗製深鉢である。口縁部は直線状に延びている。

605・607は櫃原式の鉢である。口縁は内湾して端部は丸い。口縁には連続刻目が2条入れられ、その間には沈線区画内に沈線列で補填されている。

608・609は底部破片であり、若干外周が認められる。

20層は18層上に形成された貝層である。沈線文土器と粗製深鉢が認められ、規塚B式に併行するものである。

Q. 21層出土土器（第89図610～第90図642）

610・611は元住吉山I式と思われる深鉢である。610は口縁部が屈曲し、屈曲部に沈線が入れられている。611は沈線と縄文の施された胴部破片である。

612・615は凹線文土器の深鉢で、口縁には凹線が2条入れられている。615は弧状の凹線と刺突が入れられた口縁部破片である。伊川津式のものと思われる。

613・614は規塚B式である。613は波状口縁である。口縁には弧状等の沈線が入れられている。614は屈曲する口縁部破片で、3条の沈線と連続刺突が入れられている。

616～618は下別所式と思われる深鉢である。616は細い沈線の施された口縁部である。617は波状口縁で、波頂部から口縁沿いに3条の沈線が、その下には直線と弧状の沈線が施されている。618・619は体部破片で、2条の細い沈線が平行に施されている。

620～624は櫛描文土器の深鉢である。620は口縁部を肥厚して縁帯部を形成し、そこに1条の櫛描波状文を入れている。621・622はく字条に屈曲する口縁部で、口縁には櫛描波状文が1条入れられている。623は口縁部が肥厚され、そこに横位に真直ぐのびる櫛描文が入れられている。624は口縁部が内湾し、櫛描文が弧状に入れられている。

625～638は粗製深鉢である。625は口縁部がやや外反するもので、626は口縁部が外傾するものである。627は口縁部が肥厚されて縁帯を形成している。628・629は口縁端部が連続して押圧されたもので、630には突起が付いている。631～638は口縁が外傾もしくは若干内湾する口縁部破片である。

640～642は底部破片で、底面から斜めに立ち上がっている。641は底に木葉痕がみられる。

21層は20層上に堆積した貝層である。土器は元住吉山I式、伊川津式が若干混ざるが、規塚B式が主体となっている。

R. 22層出土土器（第90図643～第91図677）

647・648は伊川津式と思われる深鉢の口縁部破片である。口縁部には2～3条の凹線が入れられている。

643～646は規塚B式の深鉢である。643は口縁部が外反する波状口縁である。口縁端部から3条の沈線を左右に展開し、その下に三叉文を入れ、左右に列点文を展開している。さらにその下には沈線

を巡らしている。644は波状口縁で、口縁部には3条の沈線を巡らしている。645・646は同一個体のものと思われ、口縁は小波状をなし、口縁沿いには沈線が2条巡らされている。

649～651は寺津式の深鉢である。649・650は口縁部が屈曲し、口縁には縄文が施されている。651は口縁部付近の破片で、口縁部は段をなして縄文が施され、その上に半截竹管文が波状に入れられ、刺突もみられる。

652～659は櫛描文土器の深鉢である。652～656は口縁部が屈曲もしくは肥厚されて縁帯部を形成し、そこに櫛描波状文を1条巡らしている。657～659は内湾する口縁部で、口縁には直線と波状の櫛描文が2条入れられているもの(657・659)と波状の櫛描文が1条入れられたもの(658)がある。これらは蛸塚B式に伴うものと思うが、657～659は伊川津式まで遡る可能性がある。

660～663は安行式系と思われる深鉢である。体部破片で、縄文と沈線が入れられているもの(660・661)と縄文地のもの(662・663)がみられる。

664は滋賀里式系の深鉢である。口縁部はやや外反し、端部に刻目入りの小突起が付く。肩部は稜があり、肩部を境に上下で調整が変えられている。

665～674は粗製深鉢である。665・666は口縁部端部に連続刻目が入れられている。667は外反する波状口縁で、波頂部には刻目が入れられている。668は口縁部が若干外傾し、口縁には2単位の突起が付いている。669は口縁部が強く外反する。670は口縁部がやや外傾し、頸部が括れている。671はいわゆる砲弾形をなしている。672は口縁部が肥厚されている。673は口縁部に段を有し、674は口縁部が内湾する。

675は浅鉢の体部破片である。体部は屈曲し、そこに櫛描文が横位に入れられている。

676・677は底部破片であり、外周が認められる。

22層は17層・19層・20層上に形成された大規模な貝層である。凹線文土器が若干混ざるが、蛸塚B式に併行する時期のものと考えられる。

S. 23層出土土器 (第91図678～第92図712)

678は櫛描文土器の深鉢である。口縁部は屈曲し、そこに櫛描波状文を1条巡らしている。

679～699は粗製深鉢である。679・681は外反する口縁である。680・688～690は口縁部が内湾する。690には輪積痕が認められる684・685は口縁部端部に指圧痕が入れられている。682・683・686は口縁部が真っ直ぐのびており、686には輪積痕が認められる。687はいわゆる砲弾形をなしている。691～699は体部破片である。これらは稲荷山式のものと思われる。

700は安行式系と思われる深鉢である。体部破片で、縄文と沈線が入れられている。

701～703は鉢・浅鉢である。701は口縁が開く鉢である。702は浅鉢の口縁部破片で、いわゆる黒色研磨土器である。口縁外面には2条、内面には1条の沈線が入れられている。703は口縁が強く外反し、体部で屈曲する浅鉢である。口縁端部には中央が僅かに窪む長方形の突起が付く。

704～712は底部破片である。704・712は底面から直に立ち上がるもので、705・707～710は僅かに外周が認められる。706は外周があり、711は凹底である。

23層は22層上に形成された貝層である。蛸塚B式と思われる櫛描文土器が1点混ざるが、大半は稲

荷山式であり、この時期のものと考えられる。

T. 24層出土土器（第93図713～716）

713～715は粗製深鉢である。713・714は口縁部がやや外反し、端部に連続刻目が施されている。713には突起が付いている。715は口縁部がやや広がるものである。

716は底部破片である。底部には外周があり、底面は凹底である。

24層は23層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式のものであり、この時期のものと考えられる。

U. 25層出土土器（第93図718～723）

717は蜆塚B式の深鉢である。口縁部に粘土を貼り付けて縁帯を構成させ、縁帯端に連続刻目を入れている。縁帯部には上下2列に連続した弧線を施している。

718～721は粗製深鉢である。718・719は口縁部がやや外反し、端部に連続刻目が施されている。721は口縁部が端部付近で外反するものである。

722は浅鉢である。口縁は強く開く。

716は底部破片である。底部には僅かに外周が認められる。

25層は10層上に形成された貝層である。蜆塚B式が1点混ざるが、殆どの出土土器は稲荷山式のものであり、この時期のものと考えられる。

V. 26層出土土器（第94図724～739）

724・725は櫛描文土器の深鉢である。724は口縁部が屈曲して段をなし、そこに櫛描波状文を1条巡らしている。725は口縁部がく字状に屈曲するが、口縁部は無文である。体部には櫛描文を2条巡らしている。

726～736は粗製深鉢である。726は縄文の施されたものである。727・728は波状口縁で、口縁部は外反して頸部が括れている。729～732は口縁部が内湾または直立し、口縁部端部には連続して指圧痕が入れている。729には輪積痕が認められる。733・734は口縁部が真っ直ぐのびている。735は口縁部がく字形に屈曲している。736は体部の凹凸が著しい。

737～739は底部破片である。737～739は底面から直に立ち上がっている。

26層は23層上に形成された貝層である。櫛描文土器が2点混ざるが、大半は稲荷山式であり、この時期のものと考えられる。

W. 27層出土土器（第95図740）

740は粗製深鉢である。口縁部は強く外反し、端部は尖る。

27層は22層上に形成された貝層である。出土土器数が少ないが、稲荷山式の時期のものと考えられる。

X. 28層出土土器（第95図741～762）

741は櫛描文土器の深鉢である。724は口縁部が肥厚させられて段をなし、そこに櫛描波状文を1条巡らしている。

742～745・747～754は粗製深鉢である。742～745は口縁部が内湾または直立し、口縁部端部には連続して刻目が入れている。747～754は口縁部が比較的真っ直ぐのびているものである。754には補修孔が認められる。

755は大洞式系の壺である。肩部破片で、口縁から頸部は屈曲し、体部へと膨らんでいる。沈線と縄文が入れている。

756は壺と思われるものである。口縁部は直立し、頸部で括れて胴部へと膨らむ。

746・757は浅鉢である。746は波状口縁である。755は肩部が張り出している。

758～762は底部破片である。758・759は底面から直に立ち上がっており、760はやや内湾しながら立ち上がっている。758の底面には葉脈痕がみられる。761・762は僅かに外周が認められる。

28層は26層上に形成された貝層である。櫛描文土器が1点混ざるが、大半は稲荷山式であり、この時期のものと考えられる。

Y. 30層出土土器（第96図763・764）

763は桜井式の深鉢である。口縁部は肥厚させられて、そこに押し引きによる連続刺突文を1列巡らしている。

764は粗製深鉢である。口縁部はやや内湾し、口縁部端部には連続して連続刻目が入れている。

30層は22層上に形成された貝層である。桜井式が出ており、この時期のものと考えられる。

Z. 31層出土土器（第96図765～767）

765～767は粗製深鉢である。767は口縁部がやや内湾するものである。766・767は体部破片で、767は縄文が施されている。

768は底部破片で、底面から直に立ち上がっている。

31層は30層上に形成された貝層である。出土数は少ないが、稲荷山式の時期のものと考えられる。

Aa. 34層出土土器（第96図769～784）

769～770は櫛描文土器の深鉢である。769は口縁部が内湾し、そこに櫛描波状文を1条巡らしている。770は体部破片で、櫛描波状文が2条認められる。

771～781は粗製深鉢である。771～777は口縁部が内湾または直立し、口縁部端部には連続して刻目（771・776）、指圧痕（773）、刺突（772・774・775・777）が入れている。778・780・781は口縁部が強く外反するもので、778には突起が付く。779は口縁部がやや内湾する。

782～784は底部破片である。782・784は僅かに外周が認められる。783は外周があり、底面に葉脈痕が認められる。

34層は22層・31層・32層上に形成された貝層である。櫛描文土器が2点混ざるが、大半は稲荷山式であり、この時期のものと考えられる。

Ab. 35層出土土器（第97図785～789）

785～787は粗製深鉢である。785・786は口縁部が屈曲して外傾し、口縁部端部には連続して刺突が入れられている。787は口縁部がやや内湾し、口縁部端部には連続して指圧痕が入れられている。

788は鉢である。口縁部が真っ直ぐに外方へ延びるものである。

789は底部破片で、底面からやや内湾しながら立ち上がっている。

35層は34層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式のみであり、この時期のものと考えられる。

Ac. 36層出土土器（第97図790～799）

790・791・794～796は粗製深鉢である。790は口縁部が屈曲して外傾し、口縁部端部には連続して刺突が入れられている。791は口縁部に2単位の突起が付いている。794～796は口縁部が直立もしくはやや内湾するものである。

792・793は大洞BC式の深鉢である。792の口縁部は外傾し、頸部は括れて体部が膨らむ。口縁には2条の沈線と連続刺突文、突起が付いている。体部には縄文が施されている。793は口縁部が緩やかに外反し、端部に突起が付く。口縁には5条の沈線と連続刺突、縄文が施され、頸部には6条の沈線と2列の連続刺突が施されている。

797～799は底部破片で、797・798は僅かに外周が認められる。799は底面から直に立ち上がっている。

36層は34層・35層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式と併行する土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Ad. 37層出土土器（第98図800・801）

800は粗製深鉢である。口縁部は屈曲して外傾し、口縁部端部には連続して刻目が入れられている。

801は台付鉢の接続部破片である。脚部へはハ字状に広がっている。

37層は36層上に形成された貝層である。出土土器は少量だが稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Ae. 38層出土土器（第98図802～810）

802～804・806は粗製深鉢である。802は口縁部が外傾し、頸部は括れて体部が膨らむ。803は波状をなす可能性のある口縁部破片である。804・806は口縁部が真っ直ぐのび、806には補修孔と輪轡痕がみられる。

805・807は鉢・浅鉢である。805は口縁部が真っ直ぐのびる鉢である。807はく字状に屈曲する浅鉢であり、口縁端部は玉縁で、突起が付く。

808は不明の土器破片である。中空になっていることから土器として扱ったが、土偶脚部の可能性もある。

809・810は底部破片で、809は僅かに外周が認められる。810は外周があり、底面には環状の痕跡が認められる。

38層は36層・37層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Af. 39層出土土器（第99図811～818）

811～814・816・817は粗製深鉢である。811～814は口縁部が真っ直ぐのび、812には端部に連続刻目がみられる。816・817は体部破片である。

815は突帯文土器の系譜を引く土器の深鉢である。口縁部は外反し、無突帯である。

818は底部破片で、僅かに外周が認められる。

39層は38層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Ag. 40層出土土器（第99図819～831）

819は突帯文土器の系譜を引く土器の深鉢である。頸部付近の破片であり、貝条痕が施されている。820～824・826は粗製深鉢である。820・821・823・824は口縁部が真っ直ぐのびている。822は口縁部が内湾する。826・827～830は体部破片で、826には輪積痕が、830は縄文がみられる。

825・831は鉢・浅鉢である。825は口縁部が外傾して真っ直ぐ延びている鉢である。831はく字状に屈曲する浅鉢であり、口縁端部は玉縁で、突起が付く。

827は壺であり、頸部は括れ体部が膨らんでいる。体部には沈線が施され、朱が付着している。

40層は39層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Ah. 41層出土土器（第100図832～847）

832～834は突帯文系土器の深鉢である。832は口縁がやや外反し、1条の細い突帯が付く。突帯及び口縁端部には貝による連続刻目が入れている。834は口縁部が直立し、肩部で段をなす。口縁端部には貝により連続刻目が入れている。

835～842は粗製深鉢である。835～838は口縁部が真っ直ぐのびている。839～842は体部破片で、840には輪積痕がみられる。

843は大洞式系の深鉢である。体部破片で、2条の沈線と縄文が施されている。

844は鉢である。口縁部はやや内湾している。

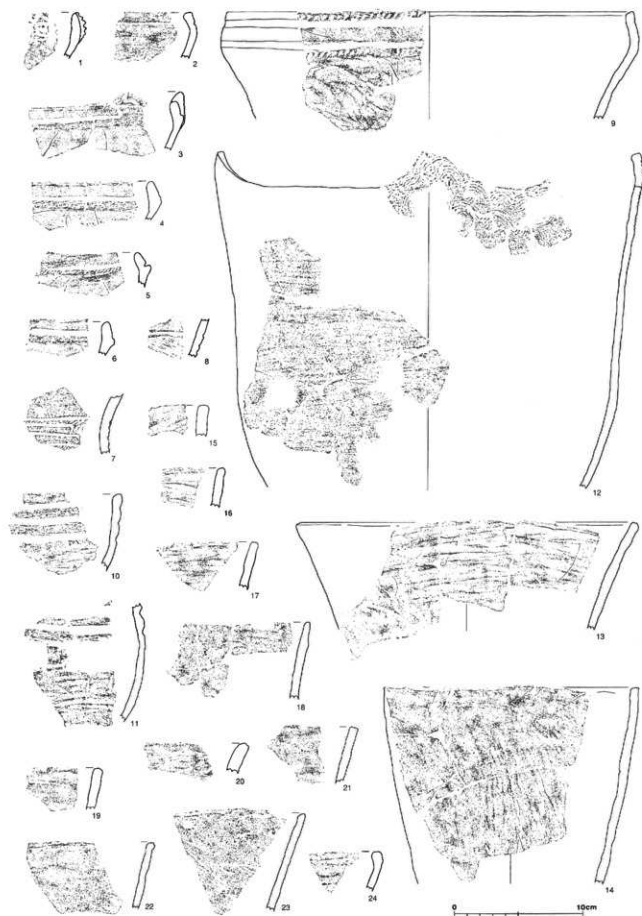
845～847は底部破片である。845・847は底面が小さくて平らではない。846は底面が平らである。

41層は40層上に形成された貝層である。出土土器は西之山式土器及び併行するもののみであり、この時期のものと考えられる。

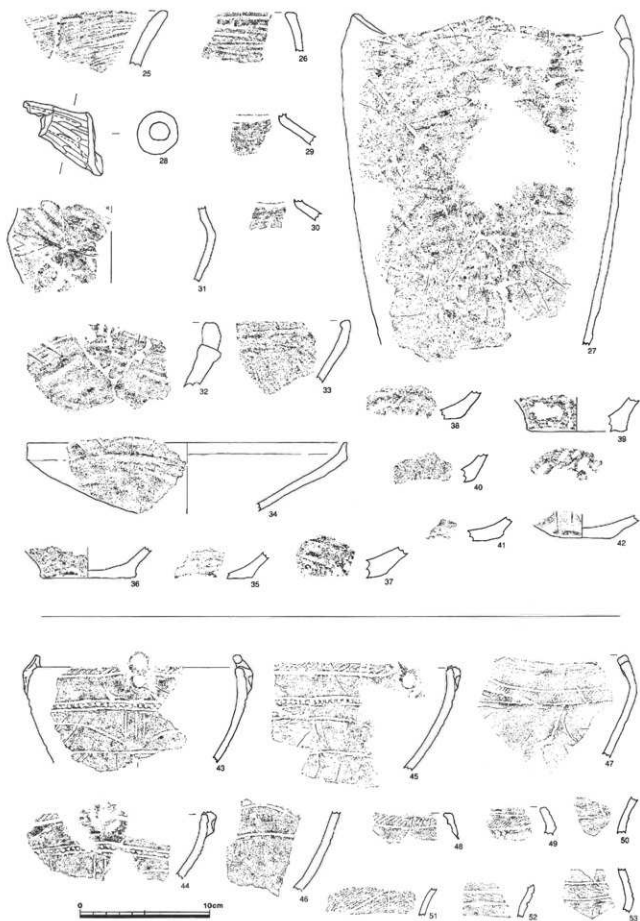
Al. 42層出土土器（第100図848～853）

848・849は粗製深鉢である。848・849は口縁部が真っ直ぐのび、848の端部に連続刻目がみられる。

850は突帯文土器の系譜を引く土器の深鉢である。口縁部は外反して無突帯で、肩部には段がある。



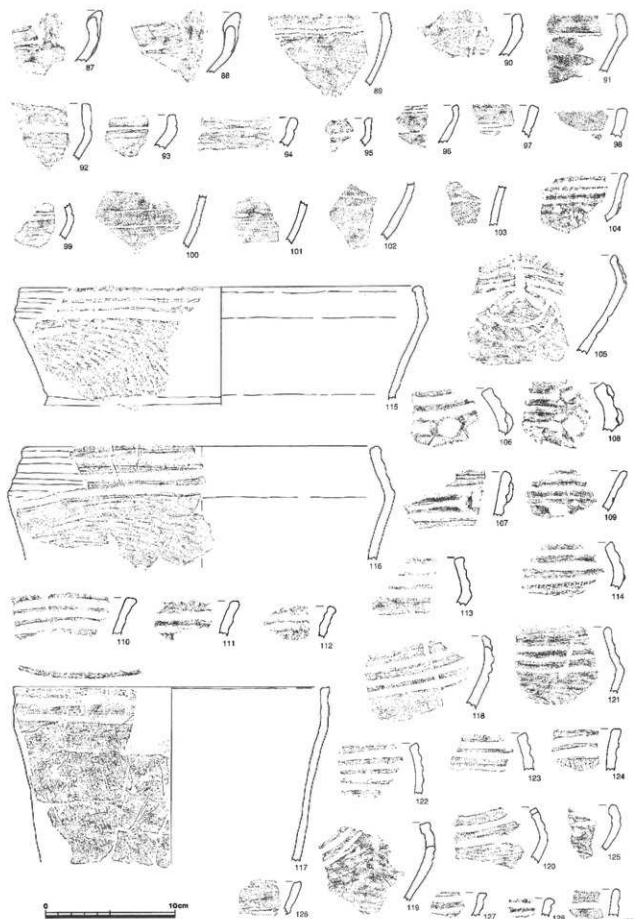
第70図 1層出土縄文土器実測図-1 (1/3)



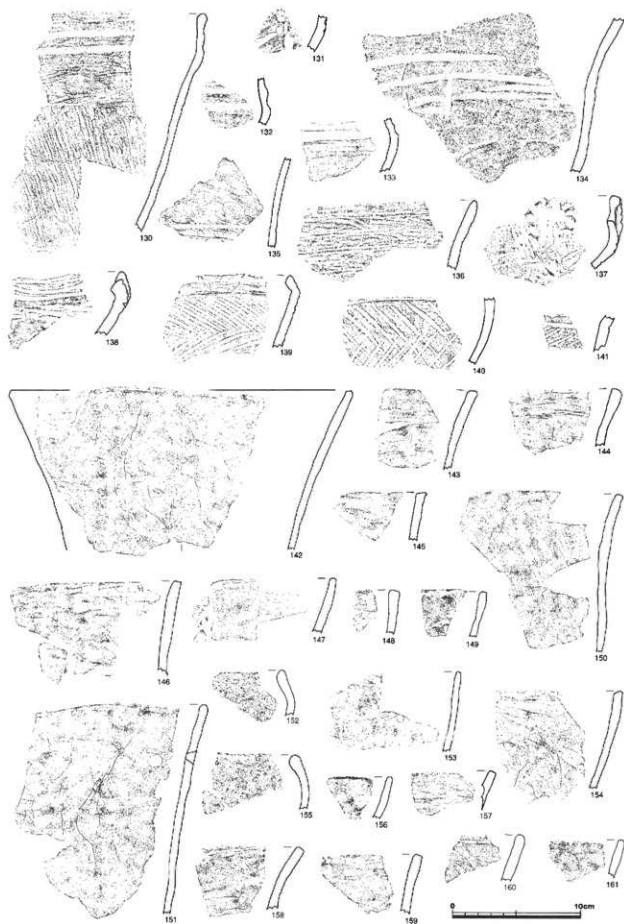
第71図 1層出土縄文土器一2・2層出土縄文土器実測図一1 (1/3)



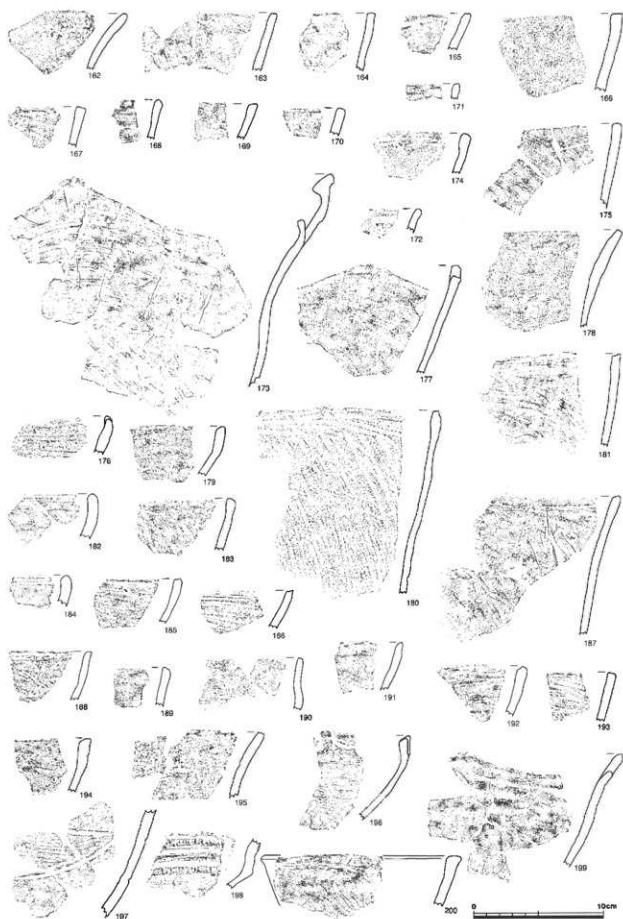
第72図 2層出土縄文土器実測図-2 (1/3)



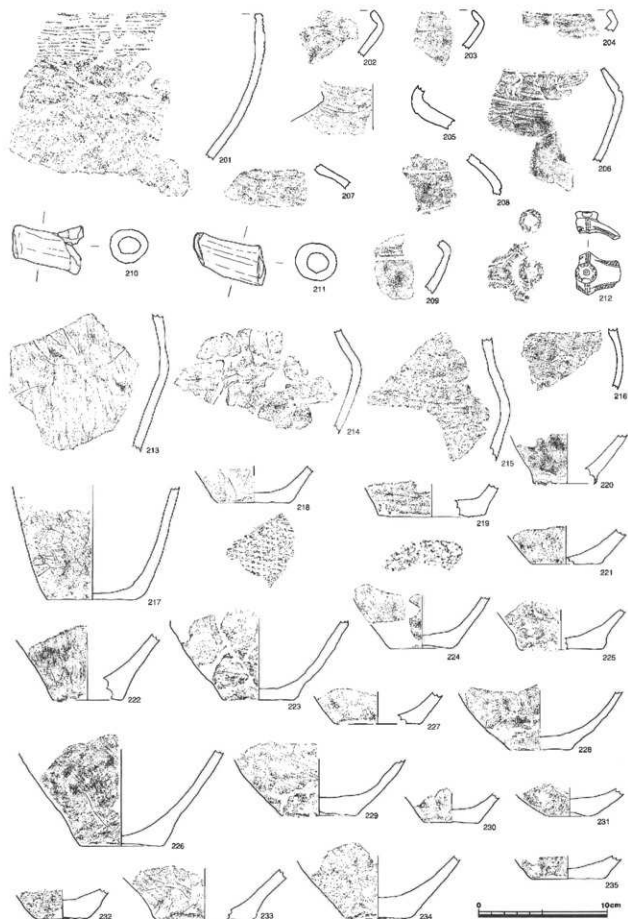
第73図 2層出土綿文土器実測図-3 (1/3)



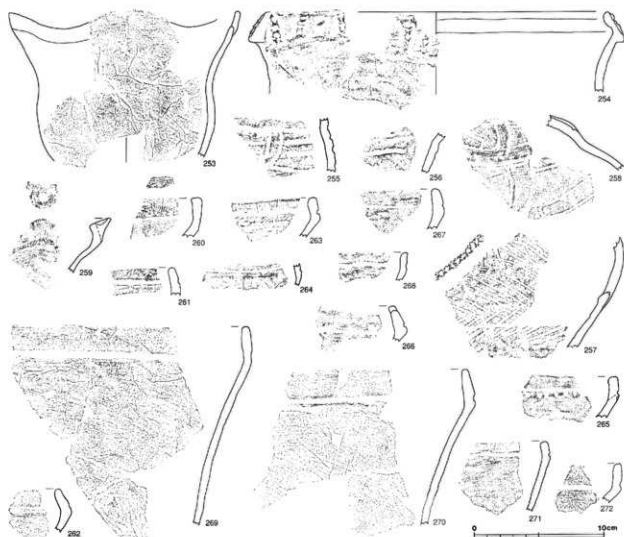
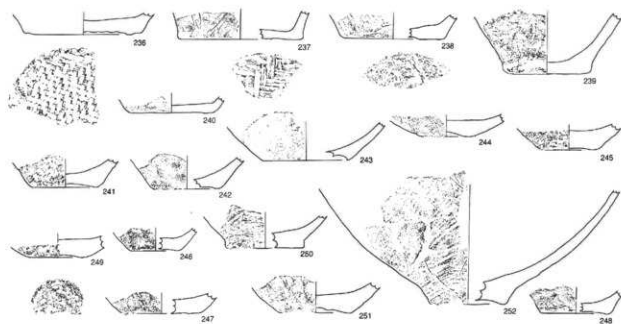
第74図 2層出土縄文土器実測図-4 (1/3)



第75図 2層出土縄文土器実測図一5 (1/3)



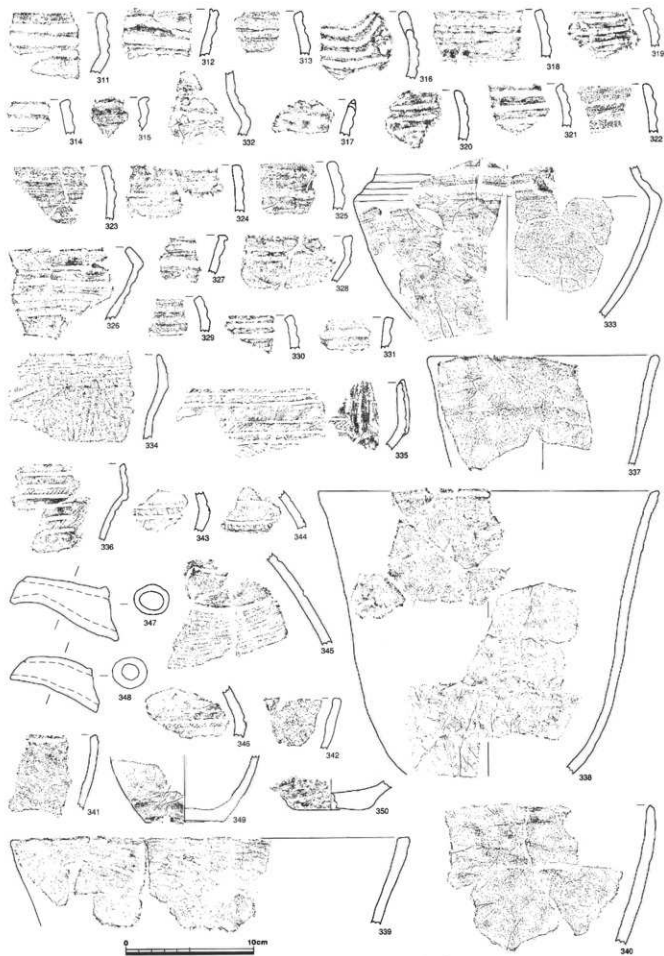
第76図 2層出土焼文土器実測図-6 (1/3)



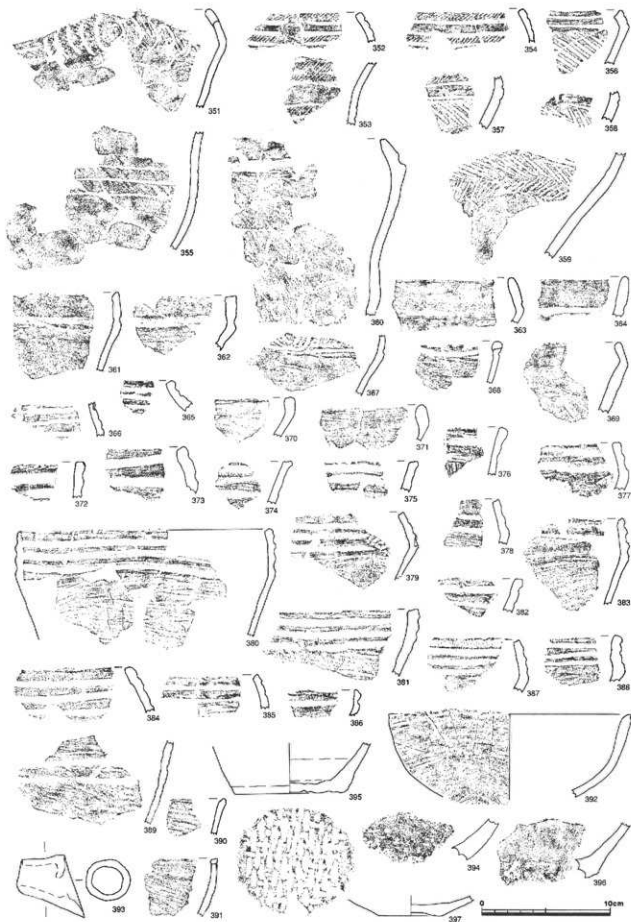
第77図 2層出土縄文土器一7・3層出土縄文土器実測図-1 (1/3)



第78図 3層出土縄文土器一2・5層出土縄文土器実測図一1 (1/3)



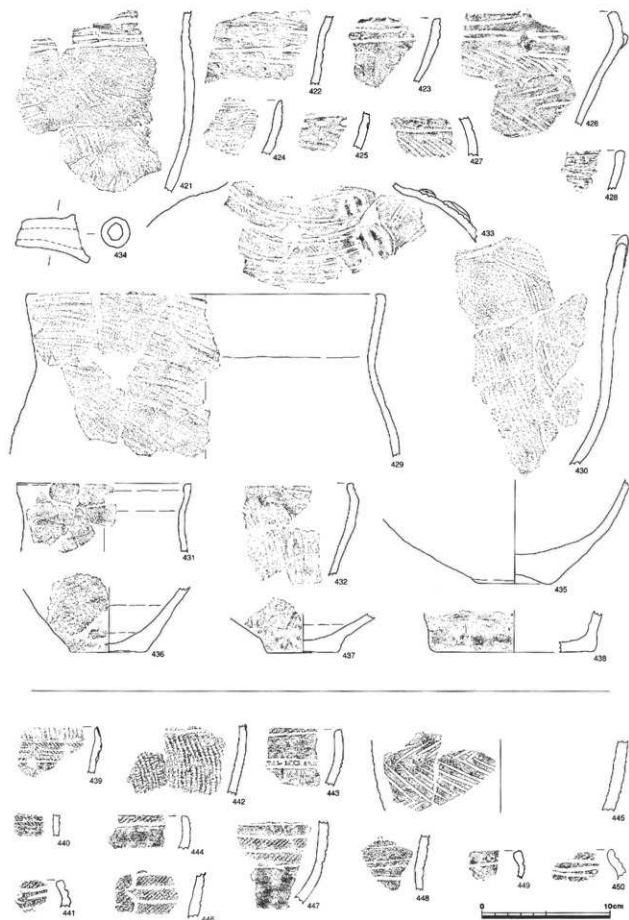
第79図 5層出土縄文土器実測図-2 (1/3)



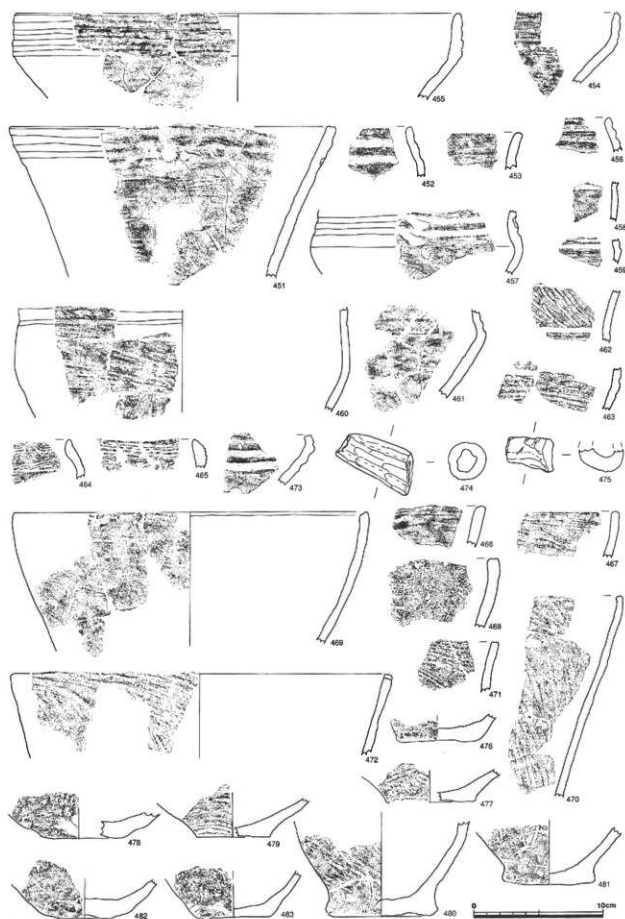
第80図 6層出土縄文土器実測図 (1/3)



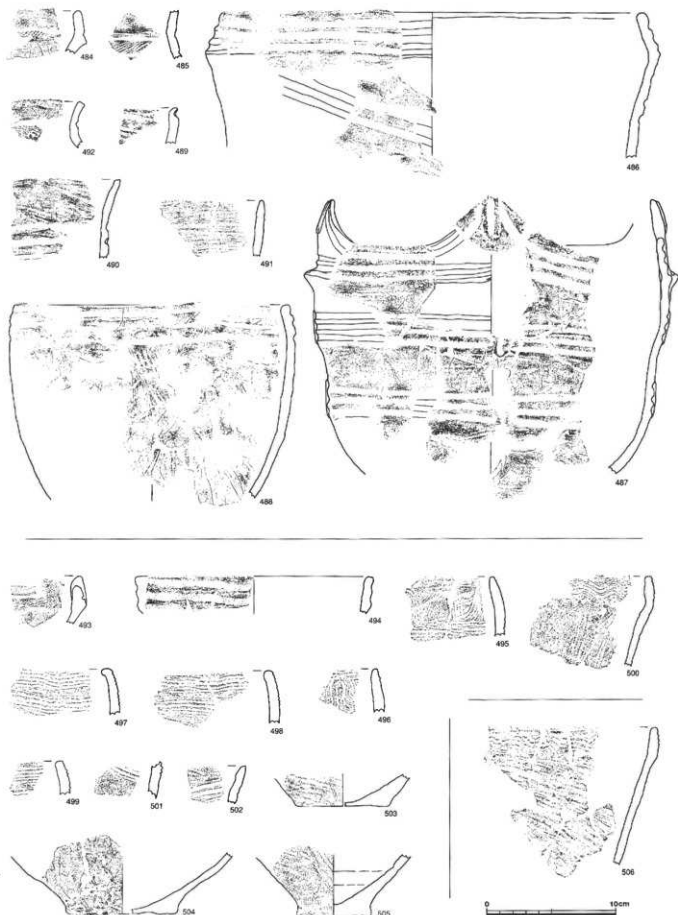
第81图 7層出土縄文土器実測図-1 (1/3)



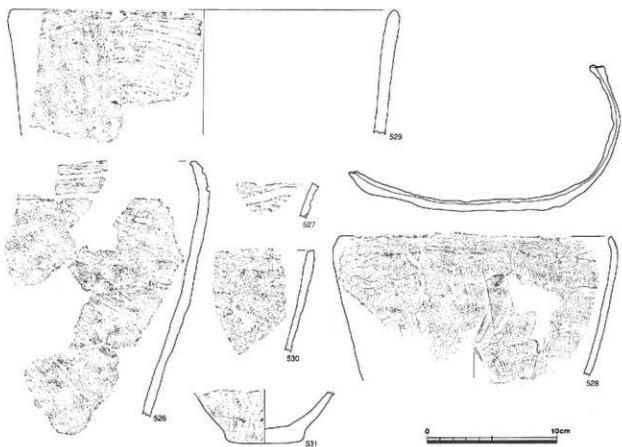
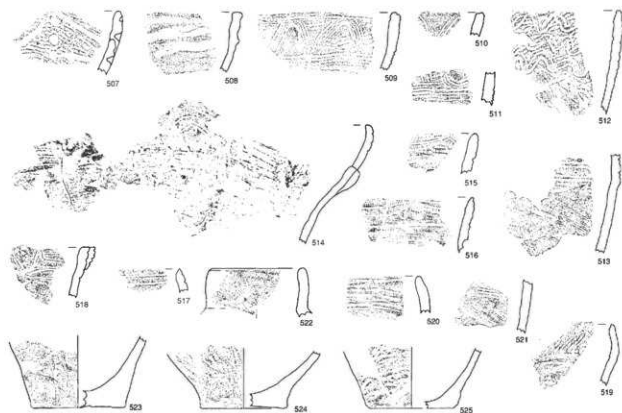
第82図 7層出土縄文土器一2・8層出土縄文土器実測図一1 (1/3)



第83図 8層出土縄文土器実測図-2 (1/3)



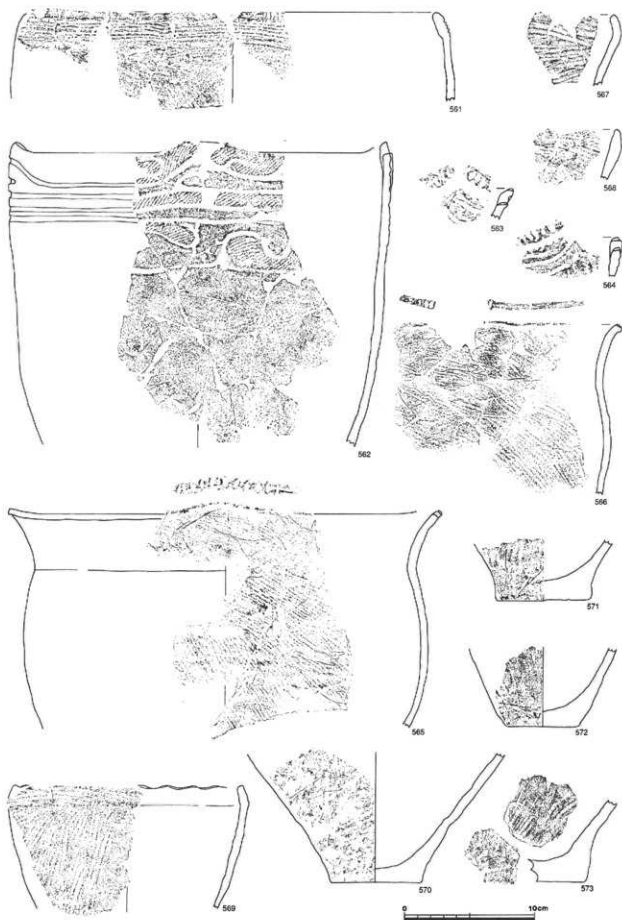
第84図 10層出土縄文土器・11層出土縄文土器・12層出土縄文土器実測図 (1/3)



第85図 13層出土縄文土器・14層出土縄文土器実測図 (1/3)



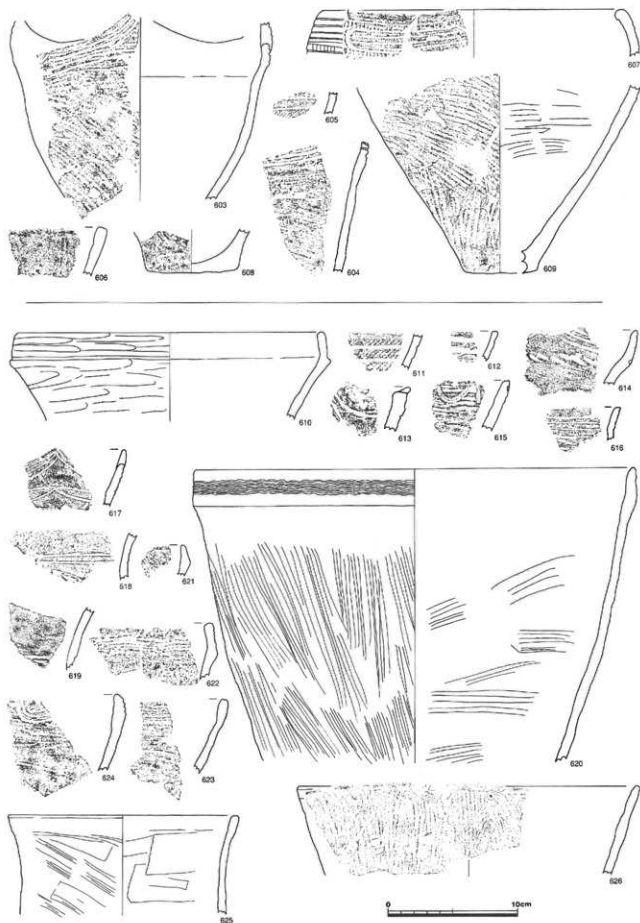
第86図 16層出土縄文土器・17層出土縄文土器実測図一1 (1/3)



第87図 17層出土縄文土器実測図-2 (1/3)



第88図 18層出土縄文土器・19層出土縄文土器実測図 (1/3)



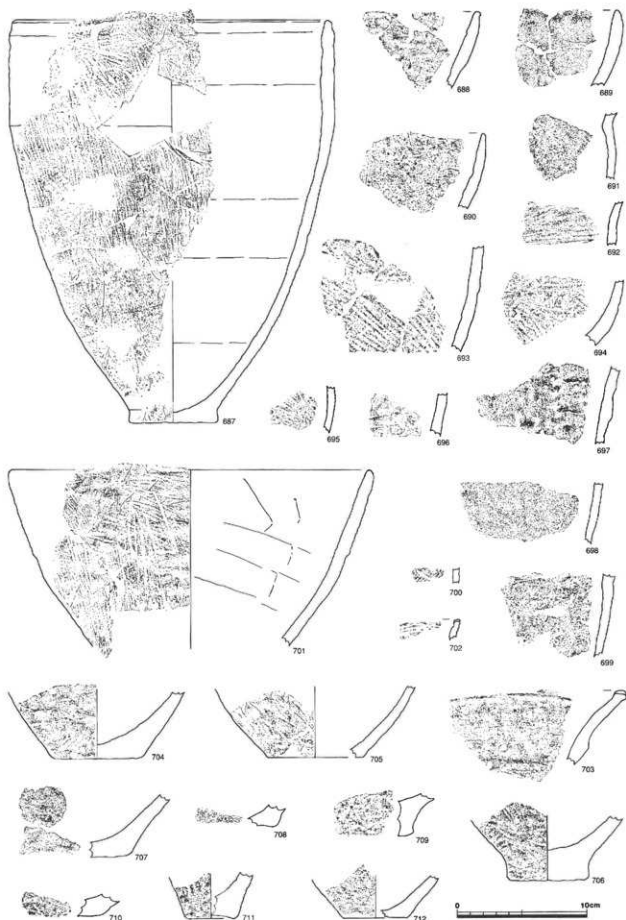
第89図 20層出土縄文土器・21層出土縄文土器実測図一 1 (1/3)



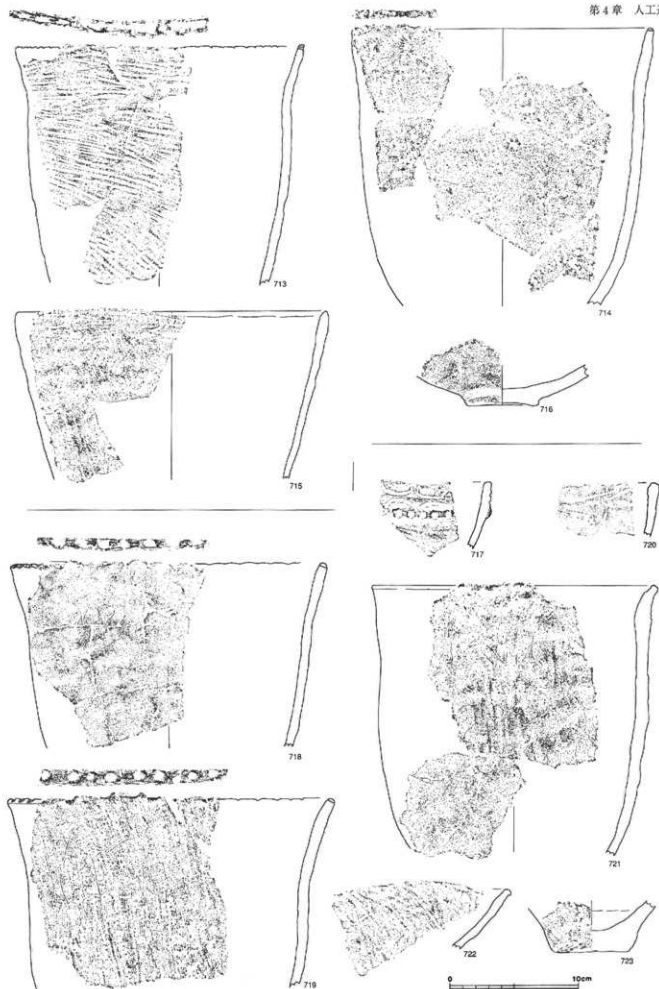
第90図 21層出土縄文土器一2・22層出土縄文土器実測図一1 (1/3)



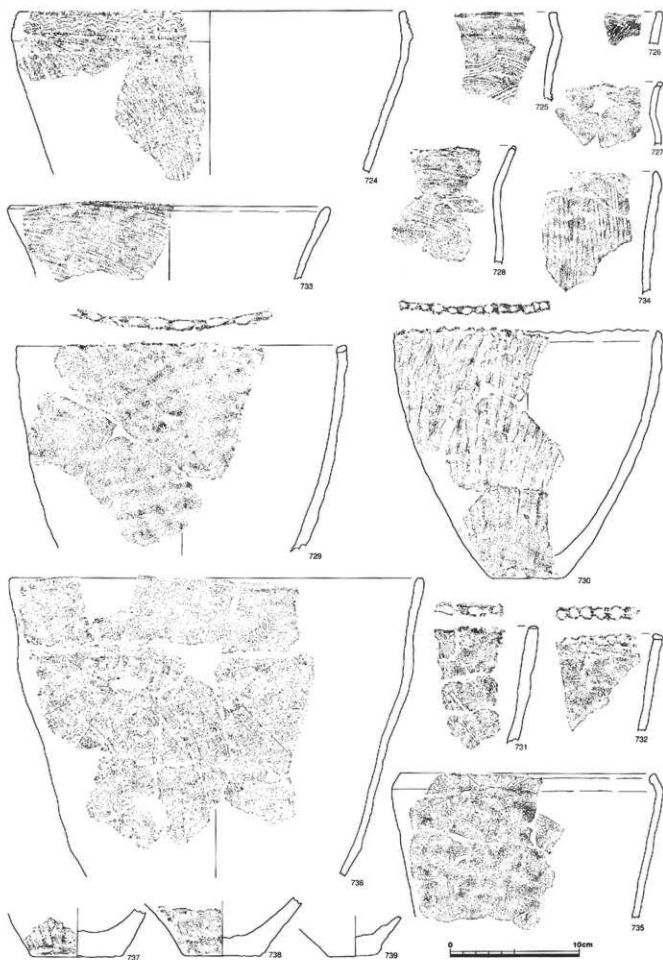
第91図 22層出土縄文土器-2・23層出土縄文土器実測図-1 (1/3)



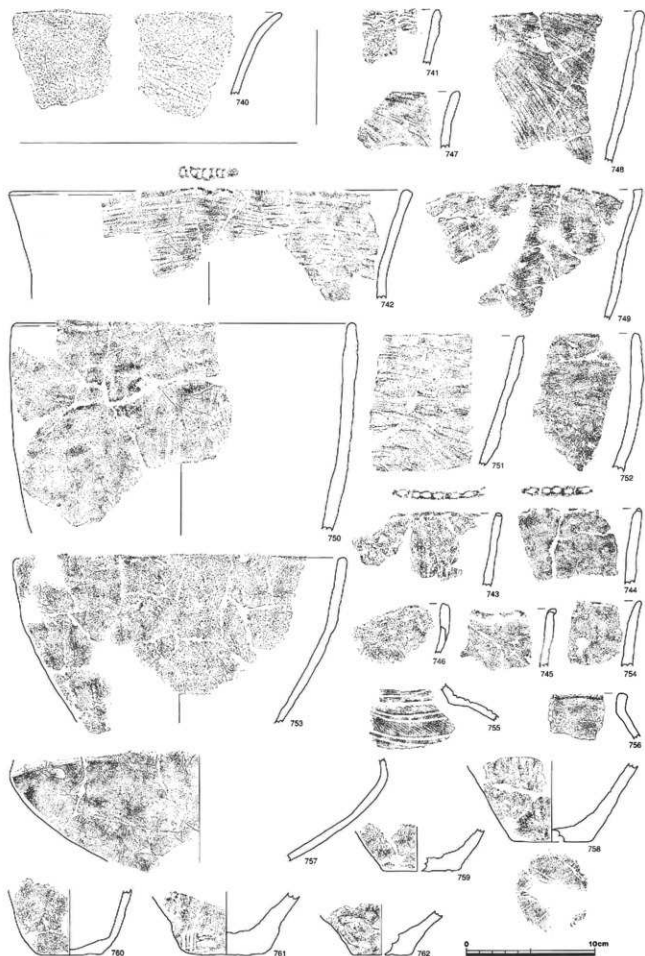
第92図 23層出土縄文土器実測図-2 (1/3)



第93図 24層出土縄文土器・25層出土縄文土器実測図 (1/3)



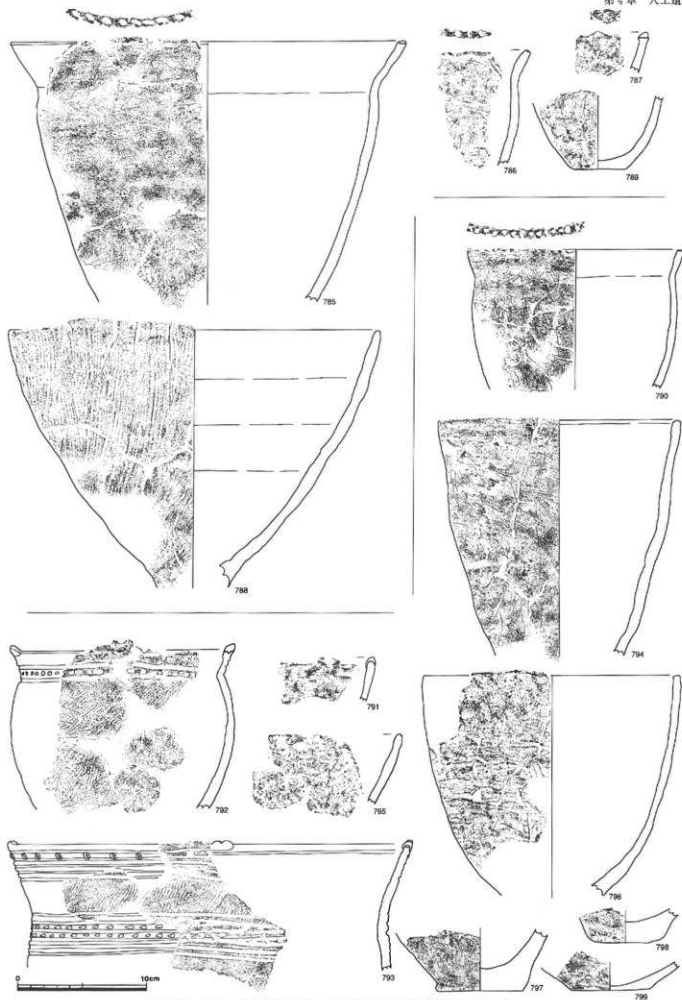
第94図 26層出土縄文土器実測図 (1/3)



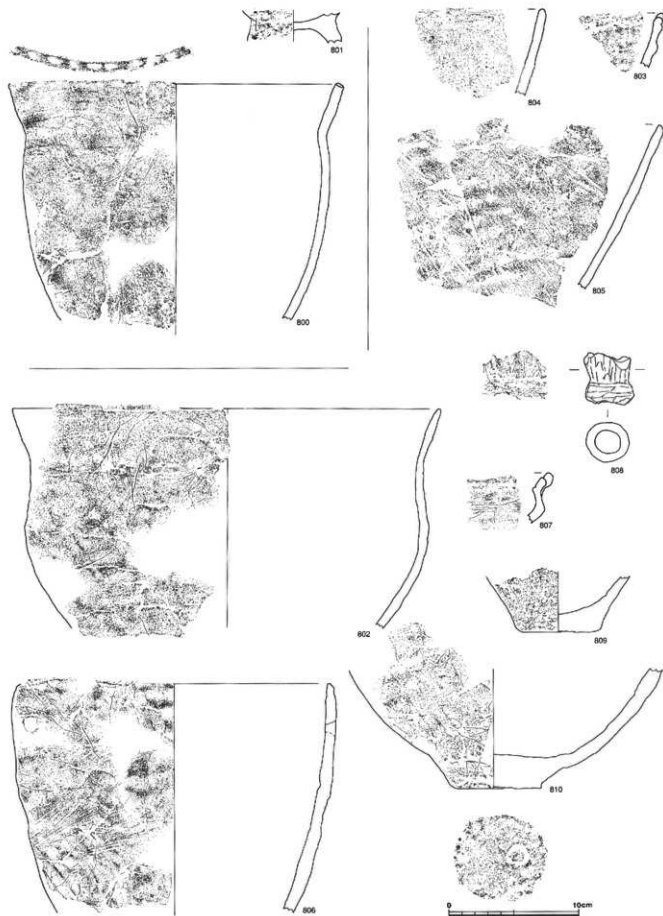
第95図 27層出土縄文土器・28層出土縄文土器実測図 (1/3)



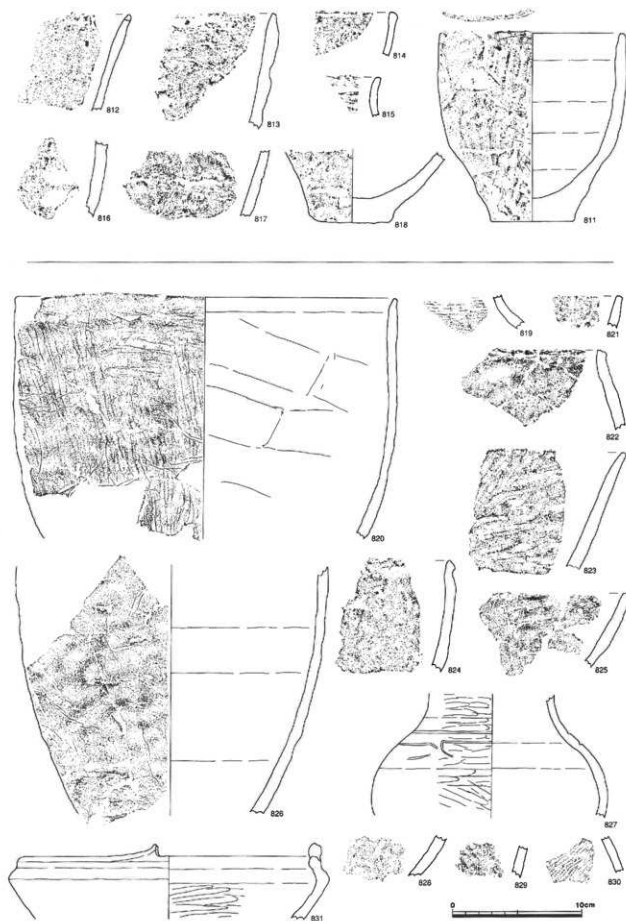
第96図 30層出土縄文土器・31層出土縄文土器・34層出土縄文土器実測図 (1/3)



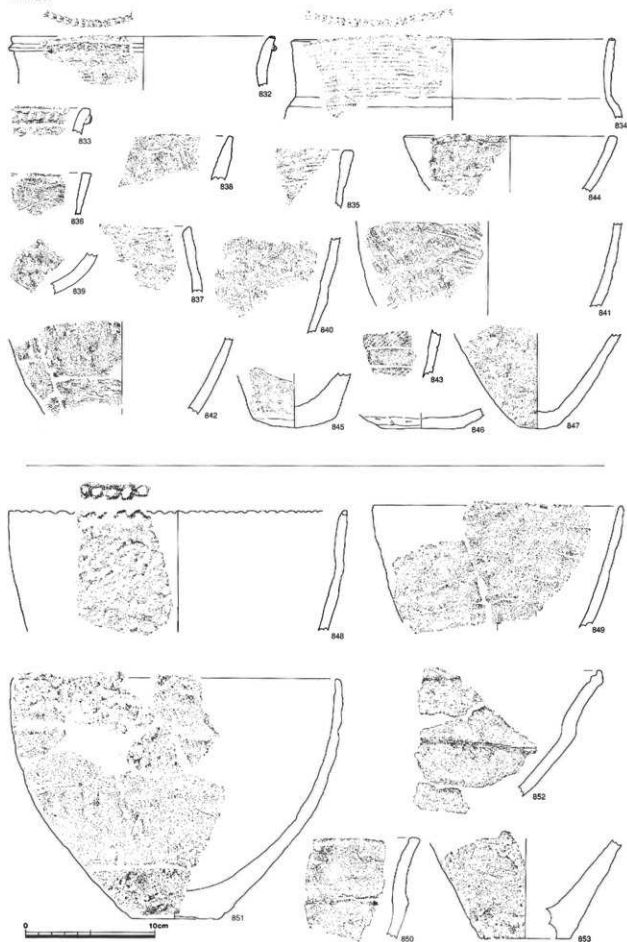
第97図 35層出土縄文土器・36層出土縄文土器実測図 (1/3)



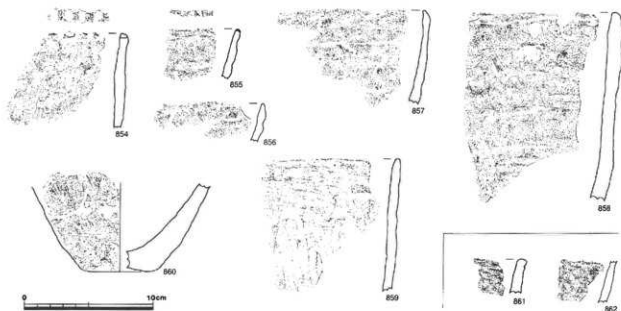
第98図 37層出土縄文土器・38層出土縄文土器実測図（1/3）



第99図 39層出土縄文土器・40層出土縄文土器実測図 (1/3)



第100図 41層出土縄文土器・42層出土縄文土器実測図 (1/3)



第101図 43層出土縄文土器・45層出土縄文土器実測図（1/3）

852は浅鉢である。口縁は外傾し、肩部で段をなす。口縁内面には沈線が2条巡らされている。

853は底部破片で、底面から直に立ち上がる。

42層は24層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Aj. 43層出土土器（第101図854～860）

854～859は粗製深鉢である。854～859は口縁部が真っ直ぐのび、854・854の端部には連続刻目がみられる。

860は底部破片で、底面は凹底である。

43層は42層上に形成された貝層である。出土土器は稲荷山式土器のみであり、この時期のものと考えられる。

Ak. 45層出土土器（第101図861・862）

861・862は粗製深鉢で、口縁部は真っ直ぐのびている。

45層は36層・38層上に形成された貝層である。出土土器は少なく稲荷山式のものと考えられる。

第2表 縄文土器観察表

図例一連数%	層位	地区	分類	口径	器高	底径	その他	形状	色澤	調査所
70	1 1層	e-6-9	深鉢					底	暗茶褐色	内面ナナ、ミダナ、片割付片縁、ナナ、ミダナ
	2 1層	e-6-10	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、ミダナ
	3 1層	e-6-11	深鉢					底	暗灰褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、ミダナ、底縁
	4 1層	e-6-12	深鉢					底	暗灰色	内面ナナ、外縁破文(ミダナ)、ナナ
	5 1層	e-6-13	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、ミダナ
	6 1層	e-6-14	深鉢					底	茶褐色	内面ミダナ、ナナ、外縁破文、底縁、ミダナ
	7 1層	e-6-15	深鉢					底	茶褐色	内面ナナ、外縁破文、ナナ、ミダナ
	8 1層	e-6-16	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁破文、ミダナ
	9 1層	e-6-17	深鉢	21.8	(15.0)			底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁破文、ナナ、ミダナ
	10 1層	e-6-18	深鉢					底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁
	11 1層	e-6-19	深鉢					底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁破文(底縁)、底縁
	12 1層	e-6-20	深鉢	33.2	(18.2)		やや傾	底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁破文、底縁、底縁
	13 1層	e-6-21	深鉢	26.0	(8.4)			底	暗茶褐色	内面ミダナ、外縁ミダナ
	14 1層	e-6-22	深鉢	18.9	(15.7)			底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	15 1層	e-6-23	深鉢					底	灰土	内面ミダナ、外縁ミダナ
	16 1層	e-6-24	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	17 1層	e-6-25	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	18 1層	e-6-26	深鉢					底	暗灰褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	19 1層	e-6-27	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	20 1層	e-6-28	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	21 1層	e-6-29	深鉢					底	暗灰褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	22 1層	e-6-30	深鉢					底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	23 1層	e-6-31	深鉢					底	暗茶褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁
	24 1層	e-6-32	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁破文、底縁、ナナ
	25 1層	e-6-33	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁破文、底縁、底縁
71	26 1層	e-6-34	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁破文、底縁、底縁
	27 1層	e-6-35	深鉢	23.0	(26.2)			底	暗褐色	内面ナナ、外縁破文、底縁、ナナ
	28 1層	e-6-36	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、底縁、底縁
	29 1層	e-6-37	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁ミダナ
	30 1層	e-6-38	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁ミダナ
	31 1層	e-6-39	深鉢		(6.0)			底	暗灰褐色	内面ナナ、底縁、底縁、底縁
	32 1層	e-6-40	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	33 1層	e-6-41	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	34 1層	e-6-42	深鉢	24.8	(14.1)			底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	35 1層	e-6-43	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	36 1層	e-6-44	深鉢		(2.4)	5.8		底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	37 1層	e-6-45	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ
	38 1層	e-6-46	深鉢				やや傾	底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	39 1層	e-6-47	深鉢	22.0	7.0		やや傾	底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	40 1層	e-6-48	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	41 1層	e-6-49	深鉢					底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	42 1層	e-6-50	深鉢		(1.8)	4.5		底	暗褐色	内面ナナ、外縁ミダナ、底縁、底縁
	43 2層	e-6-51	深鉢	16.2	(8.7)			底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、底縁、底縁、底縁、ミダナ
	44 2層	e-6-52	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、底縁、底縁、底縁、ミダナ
	45 2層	e-6-53	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、底縁、底縁、底縁、ミダナ
	46 2層	e-6-54	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文、底縁、底縁、底縁、ミダナ
	47 2層	e-6-55	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	48 2層	e-6-56	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	49 2層	e-6-57	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	50 2層	e-6-58	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	51 2層	e-6-59	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	52 2層	e-6-60	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	53 2層	e-6-61	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
72	54 2層	e-6-62	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	55 2層	e-6-63	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	56 2層	e-6-64	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	57 2層	e-6-65	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	58 2層	e-6-66	深鉢	3.4	(3.9)			底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	59 2層	e-6-67	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	60 2層	e-6-68	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	61 2層	e-6-69	深鉢	26.7	(7.7)			底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	62 2層	e-6-70	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	63 2層	e-6-71	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	64 2層	e-6-72	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	65 2層	e-6-73	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	66 2層	e-6-74	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	67 2層	e-6-75	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	68 2層	e-6-76	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	69 2層	e-6-77	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	70 2層	e-6-78	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	71 2層	e-6-79	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	72 2層	e-6-80	深鉢	29.2	(8.9)			底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	73 2層	e-6-81	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	74 2層	e-6-82	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	75 2層	e-6-83	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	76 2層	e-6-84	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	77 2層	e-6-85	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	78 2層	e-6-86	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	79 2層	e-6-87	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	80 2層	e-6-88	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	81 2層	e-6-89	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	82 2層	e-6-90	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	83 2層	e-6-91	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	84 2層	e-6-92	深鉢	36.9	(19.2)			底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	85 2層	e-6-93	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	86 2層	e-6-94	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
73	87 2層	e-6-95	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	88 2層	e-6-96	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	89 2層	e-6-97	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ
	90 2層	e-6-98	深鉢					底	暗褐色	内面ミダナ、外縁破文(ミダナ)、底縁、底縁、ミダナ

国産・産物名	産地	産区	分類	口産	基高	成産	その他	販主	産成	色調	産成等
90	2層	c-21-3	産物					産	良好	茶褐色	内産ナダ、外産ミギキ
91	2層	d-22-1	産物					産	良好	茶褐色	内産ナダ、外産内産、産文ミ、ナダ
92	2層	d-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
93	2層	e-22-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミギキ
94	2層	e-14-3	産物					産	良好	茶褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産のミナダ
95	2層	c-20-3	産物					産	良好	茶褐色	内産ナダ、外産内産、ミギキ
96	2層	b-18-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
97	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミギキ
98	2層	i-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
99	2層	c-20-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
100	2層	c-20-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産文ミ、ナダ
101	2層	c-20-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産文ミ、ナダ
102	2層	c-19-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産のミナダ
103	2層	c-20-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産のミナダ
104	2層	i-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
105	2層	d-13-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
106	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
107	2層	g-13-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
108	2層	b-15-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
109	2層	d-13-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
110	2層	g-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
111	2層	e-11-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
112	2層	c-15-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
113	2層	i-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
114	2層	b-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
115	2層	i-14-3	産物		31.2	0.1		産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、産員各産
116	2層	g-12-3	産物		27.4	0.1		産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産のミナダ
117	2層	b-15-3	産物		24.7	(13.9)		産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産のミナダ
118	2層	b-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
119	2層	c-16-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
120	2層	d-11-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
121	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、外産内産
122	2層	e-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
123	2層	g-11-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
124	2層	i-13-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
125	2層	c-16-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
126	2層	c-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ミナダ
127	2層	c-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
128	2層	c-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
129	2層	c-15-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
130	2層	i-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
131	2層	e-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
132	2層	i-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
133	2層	d-12-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
134	2層	i-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産
135	2層	d-13-1	産物					産	良好	産褐色	内産ミギキ、外産内産、ミギキ
136	2層	b-11-3	産物					産	良好	産褐色	内産産員各産、外産内産、ミギキ、産員各産
137	2層	b-25-3	産物					産	良好	産褐色	内産産員各産、外産内産、ミギキ、産員各産
138	2層	i-14-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、産員各産、ナダ
139	2層	e-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
140	2層	d-11-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
141	2層	g-19-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産内産、ナダ
142	2層	g-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
143	2層	d-11-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
144	2層	g-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
145	2層	i-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
146	2層	i-11-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
147	2層	b-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
148	2層	i-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ、産員各産
149	2層	e-21-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
150	2層	b-21-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
151	2層	g-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ、産員各産
152	2層	i-22-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
153	2層	g-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
154	2層	g-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ、ミナダ
155	2層	i-22-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
156	2層	c-20-3	産物					産	良好	産褐色	内産ミギキ、外産ミギキ
157	2層	d-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ミギキ
158	2層	e-17-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
159	2層	c-17-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
160	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
161	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
162	2層	d-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
163	2層	c-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
164	2層	c-16-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
165	2層	d-13-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
166	2層	b-17-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ、産員各産
167	2層	c-16-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
168	2層	g-11-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
169	2層	i-14-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
170	2層	c-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
171	2層	d-12-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
172	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
173	2層	i-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ、ミギキ、外産ミギキ
174	2層	b-12-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
175	2層	d-12-1	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
176	2層	b-15-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
177	2層	d-21-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ
178	2層	i-16-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ、産員各産のミナダ、産員各産
179	2層	b-16-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ、産員各産のミナダ
180	2層	b-11-3	産物					産	良好	産褐色	内産ナダ、外産ナダ、産員各産

[illegible]

品名・通商名	単位	規格	分類	口税	数量	単位	その他	加工	機能	生産	消費地
272	3箱	e-19-B	漆油					塗	良好	暗茶褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、ミギヤ
78	273	3箱	d-21-B	漆油				塗	良好	茶褐色	内面ミギヤ、内面沈縮、ミギヤ
274	3箱	e-22-B	漆油					塗	良好	暗茶褐色	内面ノギヤ、内面ミギヤ
275	3箱	e-22-B	漆油					塗	良好	茶褐色	内面ノギヤ、内面ミギヤ
276	3箱	e-19-B	漆油					塗	良好	茶褐色	内面ミギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、ミギヤ?
277	3箱	e-22-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)
278	3箱	e-20-B	漆油	(付)				塗	良好	黒褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、暗色沈縮、色目全無
279	3箱	e-20-B	漆油					塗	良好	黒褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、暗色沈縮、色目全無
280	3箱	e-19-B	漆油					塗	良好	茶褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、暗色沈縮、色目全無
281	3箱	e-19-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、暗色沈縮、色目全無
282	3箱	e-19-B	漆油					塗	良好	茶褐色	内面ノギヤ、内面沈縮、ミギヤ
283	3箱	d-21-B	漆油	(5.2)	4.7			塗	良好	茶褐色	内面ノギヤ、内面ミギヤ、近縁茶褐色
284	5箱	b-15-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
285	5箱	b-15-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
286	5箱	e-22-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
287	5箱	e-19-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
288	5箱	b-19-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
289	5箱	b-20-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
290	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
291	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
292	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
293	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
294	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
295	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
296	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
297	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
298	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
299	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
300	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
301	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
302	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
303	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
304	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
305	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
306	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
307	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
308	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
309	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
310	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
311	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、内面沈縮(ミギヤ)、沈縮、暗色、ミギヤ
312	5箱	b-21-B	漆油					塗	良好	暗褐色	内面ノギヤ、

国産・産地%	単位	地区	分類	口径	器底	直径	その他	加工	構成	色調	調査等
434	8層	c-15.5	深緑					磨	良好	淡褐色	内面ナデ、外面縦文、凹線、ミダキ
435	8層	c-16.5	深緑	34.8	05.0			磨	良好	淡褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
436	8層	c-17.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線
437	8層	c-17.5	深緑			15.1		磨	良好	淡褐色	内面ナデ、外面凹線、縦凹線、縦凹溝、ミダキ
438	8層	c-18.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線
439	8層	c-17.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
440	8層	c-16.5	深緑		17.0			磨	良好	茶褐色	内面ミダキ、流行者、外面凹線、巻貝糸痕
441	8層	c-17.5	深緑					磨	良好	淡褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
442	8層	c-18.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
443	8層	c-18.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
444	8層	c-13.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
445	8層	c-14.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
446	8層	c-22.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ミダキ
447	8層	c-26.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ミダキ
448	8層	c-13.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ
449	8層	c-13.5	深緑	27.6	10.0			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕のミダキ
450	8層	c-12.1他	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕のミダキ
451	8層	c-17.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕
452	8層	c-14.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面巻貝糸痕、外面巻貝糸痕
453	8層	c-17.5	深緑	24.2	10.0			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線(ナデ)、ミダキ、縦凹線
454	8層	c-13.1	深緑					磨	良好	淡褐色	内面ミダキ、外面ナデ
455	8層	c-18.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ
456	8層	c-13.5	深緑	42.0	6.4			磨	良好	茶褐色	内面ミダキ、外面ナデ、ミダキ
457	8層	c-13.5	深緑	42.0	6.6			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕のミダキ、外面凹線、外面ミダキ
458	8層	c-13.5	深緑	42.0	6.4			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、外面凹線
459	8層	c-13.5	深緑	43.0	5.6			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕のミダキ、外面凹線
460	8層	c-13.5	深緑	47.0	7.6			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕、外面凹線、外面ミダキ
461	8層	c-13.5	深緑	45.0	7.2			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、外面凹線
462	8層	c-13.5	深緑	43.0	5.0			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕のミダキ、外面凹線、外面ミダキ
463	8層	c-14.5	深緑	43.0	5.4			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、外面凹線
54	10層	c-19.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面縦文、凹線、ミダキ
464	10層	c-19.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面縦文(ミダキ)、ミダキ
465	10層	c-17.5他	深緑	43.0	11.0			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
466	10層	c-18.1	深緑	25.3	24.1			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕、ナデ
467	10層	c-20.5	深緑	21.4	10.0			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
468	10層	c-21.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕、外面ミダキ
469	10層	c-28.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
470	10層	c-25.1	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面巻貝糸痕
471	10層	c-19.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
472	10層	c-19.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
473	11層	c-19.1	深緑	18.6	42.0			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、ミダキ、流行者
474	11層	c-19.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線(ナデ)、ナデ
475	11層	c-19.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
476	11層	c-19.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
477	11層	c-19.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
478	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
479	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
480	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
481	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
482	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
483	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
484	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
485	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
486	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
487	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
488	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
489	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
490	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
491	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
492	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
493	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
494	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
495	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
496	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
497	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
498	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
499	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
500	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
501	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
502	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
503	11層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ミダキ
504	11層	c-14.5	深緑	14.0	8.6			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、流行者、外面凹線
505	11層	c-16.5	深緑	14.0	5.6			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、流行者、外面巻貝糸痕、外面ミダキ
506	12層	c-12.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面巻貝糸痕のミダキ、外面凹線、巻貝糸痕
507	13層	c-10.0	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、巻貝糸痕
508	13層	c-10.1	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ
509	13層	c-11.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ
510	13層	c-6.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ
511	13層	c-11.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ
512	13層	c-10.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面巻貝糸痕、外面凹線、外面ミダキ、外面凹線
513	13層	c-6.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、巻貝糸痕
514	13層	c-10.5他	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ、磨
515	13層	c-10.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ、磨
516	13層	c-10.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ、磨
517	13層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、ナデ
518	13層	c-10.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、外面ミダキ
519	13層	c-12.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、外面ミダキ
520	13層	c-10.1	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、外面ミダキ
521	13層	c-6.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、凹線、外面ミダキ
522	13層	c-10.5	深緑	7.0	33.0			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面ナデ
523	13層	c-6.1	深緑	14.0	7.2			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、外面ミダキ
524	13層	c-10.5	深緑	14.0	6.6			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、流行者、外面巻貝糸痕、外面凹線
525	13層	c-10.1	深緑	14.0	6.5			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、流行者、外面巻貝糸痕、外面凹線
526	14層	c-5.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
527	14層	c-10.1	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
528	14層	c-6.1他	深緑	21.1	11.0			磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
529	14層	c-6.5	深緑	29.8	10.0			磨	良好	暗褐色	内面巻貝糸痕、外面凹線、外面ミダキ
530	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
531	14層	c-11.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
532	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
533	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
534	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
535	14層	c-17.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
536	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
537	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
538	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
539	14層	c-17.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
540	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
541	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	茶褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
542	14層	c-17.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
543	14層	c-10.5	深緑					磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面凹線、外面ミダキ
544	14層	c-17.5他	深緑	30.8	10.0			磨	良好	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ

図面・通称%	単位	地区	分類	口徑	器底	底径	その他	胎土	構成	色調	調査等
545	16mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面マツマツ
546	16mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面青目赤銅
547	16mm	△17-2	漆鉢	170	67.5			世	良砂	暗茶色	内面ナデ、外面青目赤銅のちナデ
548	16mm	△18-2	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面青目赤銅
549	16mm	△15-9	漆鉢	6.6	23.6			世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面青目赤銅、底面白土赤
550	17mm	△15-2高度	漆鉢	55.6	122			世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
551	17mm	△11-1	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面ナデ
552	17mm	△19-1	漆鉢	22.2	19.3			世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
553	17mm	△12-1	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
554	17mm	△13-1	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
555	17mm	△12-2	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
556	17mm	△12-1	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
557	17mm	△11-2	漆鉢					世	良砂	暗茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
558	17mm	△11-2	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面青目赤銅のちナデ、外面青目赤銅
559	17mm	△12-2	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
560	17mm	△11-1他	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅
87	341	17mm	△12-1他	漆鉢	31.8	(7.1)		世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅のちナデ
562	17mm	△16-2高度	漆鉢	30.2	34.2			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤(1.1)、底面、ナデ
563	17mm	△13-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤(1.1)、底面、ナデ
564	17mm	△12-1	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤(1.1)、底面、ナデ
565	17mm	△12-9	漆鉢	34.4	67.7			世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
566	17mm	△11-1	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
567	17mm	△11-9	漆鉢					世	良砂	暗茶褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅
568	17mm	△16-2	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面青銅
569	17mm	△12-1	漆鉢	18.0	49.0			世	良砂	暗茶褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅、内面青目赤銅、底面白土赤
570	17mm	△10-2	漆鉢	(10.0)	7.9			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面青目赤銅、底面ナデ
571	17mm	△12-1	漆鉢	44.0	7.2			世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
572	17mm	△11-9	漆鉢	(5.1)	5.3			世	良砂	暗茶褐色	内面ナデ、外面ナデ、底面白土赤
573	17mm	△12-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
574	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
575	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
576	18mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
577	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
578	18mm	△13-1	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅、底面白土赤、底面白土赤
579	18mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤(1.1)、ナデ
580	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
581	18mm	△15-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ、底面白土赤
582	18mm	△14-2	漆鉢	29.2	41.0			世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
583	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
584	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
585	18mm	△13-2	漆鉢					世	良砂	暗茶色	内面ナデ、外面ナデ
586	18mm	△14-9	漆鉢					世	良砂	暗茶色	内面ナデ、外面青目赤銅のちナデ
587	18mm	△14-2他	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
588	18mm	△14-2	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤、底面白土赤、底面白土赤
589	18mm	△17-1	漆鉢	38.8	(54.0)			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
590	18mm	△13-9	漆鉢	37.9	7.0			世	良砂	暗茶色	内面青目赤銅、外面青目赤銅、底面白土赤、底面白土赤
591	18mm	△15-9	漆鉢	(2.1)	4.6			世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
592	18mm	△14-2	漆鉢	(2.2)	5.0			世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
593	18mm	△14-2	漆鉢	(2.7)	4.8			世	良砂	茶褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
594	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面ナデ
595	18mm	△15-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅(1.1)、底面、底面白土赤
596	18mm	△15-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅(1.1)、底面、底面白土赤
597	18mm	△15-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面青目赤銅、外面青目赤銅(1.1)、底面、底面白土赤
598	18mm	△15-9	漆鉢					世	良砂	暗褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
599	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
600	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
601	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
602	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
603	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
604	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
605	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
606	18mm	△15-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
607	18mm	△15-1	漆鉢	21.0	61.0			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
608	18mm	△15-1	漆鉢	(14.0)	5.6			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
609	18mm	△15-1	漆鉢	24.0	85.0			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
610	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
611	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
612	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
613	21mm	△17-9	漆鉢	(5.7)				世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
614	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
615	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
616	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
617	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
618	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
619	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
620	21mm	△17-9	漆鉢	34.4	(24.0)			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
621	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
622	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
623	21mm	△17-9	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
624	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
625	21mm	△17-1	漆鉢	18.0	67.0			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
626	21mm	△17-1	漆鉢	25.4	7.2			世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
627	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
628	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
629	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
630	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
631	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
632	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
633	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
634	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤
635	21mm	△17-1	漆鉢					世	良砂	底面褐色	内面ナデ、外面白土赤、底面白土赤

国産・産物%	産地	地区	分類	口産	器産	表産	その他	助土	焼成	包圍	調整等
636	21世	117-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ
637	21世	116-8	漆器		63.3			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ
638	21世	116-1	漆器					漆	良好	暗褐色	内面ナナ、外側ナナ
639	21世	115-1	漆器	145	41.0			漆	良好	暗褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ、器ナナ
640	21世	117-5	漆器		62.0	42		漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ、器ナナ
641	21世	613-8	漆器		62.0	44		漆	良好	暗褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
642	21世	117-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
643	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
644	22世	615-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
645	22世	117-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
646	22世	15-1	漆器	31.0	11.7			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
647	22世	155-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
648	22世	620-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
649	22世	617-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
650	22世	117-8	漆器	22.8	17.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
651	22世	617-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
652	22世	122-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
653	22世	617-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
654	22世	123-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
655	22世	120-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
656	22世	123-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
657	22世	122-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
658	22世	119-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
659	22世	120-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
660	22世	115-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
661	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
662	22世	141-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
663	22世	111-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
664	22世	610-8	漆器	38.6	17.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
665	22世	110-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
666	22世	614-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
667	22世	116-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
668	22世	110-1	漆器	27.8	116.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
669	22世	120-8	漆器	38.2	111.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
670	22世	614-8	漆器	29.8	16.5			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
671	22世	615-8	漆器	23.8	118.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
672	22世	617-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
673	22世	613-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
674	22世	618-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
675	22世	123-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
676	22世	116-8	漆器	61.0	5.8			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
677	22世	116-8	漆器	13.0	5.8			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
678	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
679	22世	116-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
680	22世	117-8	漆器	31.6	6.7			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
681	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
682	22世	117-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
683	22世	116-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
684	22世	116-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
685	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
686	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
687	22世	117-1	漆器	34.4	32.1	7.0		漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
688	22世	115-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
689	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
690	22世	115-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
691	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
692	22世	117-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
693	22世	615-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
694	22世	617-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
695	22世	116-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
696	22世	115-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
697	22世	117-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
698	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
699	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
700	22世	115-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
701	22世	116-1	漆器	38.0	124.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
702	22世	114-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
703	22世	117-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
704	22世	115-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
705	22世	117-8	漆器	15.0	7.4			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
706	22世	116-1	漆器	15.0	5.8			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
707	22世	115-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
708	22世	116-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
709	22世	614-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
710	22世	115-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
711	22世	614-8	漆器	6.0	3.6			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
712	22世	116-1	漆器	13.2	5.2			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
713	24世	616-1	漆器	22.4	119.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
714	24世	113-8	漆器	21.4	20.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
715	24世	114-8	漆器	21.4	113.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
716	24世	115-1	漆器	13.2	5.2			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
717	24世	610-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
718	24世	122-8	漆器	21.8	114.7			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
719	24世	122-8	漆器	20.4	113.1			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
720	24世	123-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
721	24世	122-8	漆器	17.8	21.6			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
722	24世	123-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
723	24世	121-8	漆器	14.1	5.6			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
724	24世	620-8	漆器	30.4	113.0			漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
725	24世	119-1	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ
726	24世	115-8	漆器					漆	良好	茶褐色	内面ナナ、外側ナナ、器ナナ

国名・通称	単位	地区	分類	口数	部数	底数	その他	地上	海底	色調	調整等
727	26歳	129-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ
728	26歳	119-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録
729	26歳	117-B	陸録	25.6	18.6			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、掛ナリ、極端内陸、浪江流
730	26歳	117-B	陸録	20.4	19.7	5.4		青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録、極端内
731	26歳	117-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江流
732	26歳	117-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、のちナリ、極端内
733	26歳	117-B	陸録	25.0	6.6			青	良好	暗紫色	内陸録り本録、外陸録り本録
734	26歳	118-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録
735	26歳	117-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ
736	26歳	117-1	陸録	32.2	13.6			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江流ナリ
737	26歳	117-B	陸録	17.4	6.8			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、極端本録
738	26歳	118-1	陸録	4.7	5.8			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江流録
739	26歳	117-1	陸録	13.2	4.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
740	27歳	123-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸録り本録、浪江ナリ、一部録り本録
741	26歳	123-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ
742	26歳	118-B	陸録	31.0	6.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録、ナリ、安録
743	26歳	118-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
744	26歳	117-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
745	26歳	117-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
746	26歳	117-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
747	26歳	122-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸録り本録、外陸録り本録
748	26歳	121-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、浪江流、外陸録り本録
749	26歳	122-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録
750	26歳	118-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録
751	26歳	117-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸録り本録、外陸ナリ
752	26歳	124-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ
753	26歳	117-B	陸録	26.2	12.3			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ
754	26歳	118-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、極端内
755	26歳	124-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ、一部録り本録
756	26歳	117-1	陸ナリ					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
757	26歳	123-B	陸録	6.3				青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
758	26歳	118-1	陸録	6.3	6.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
759	26歳	118-1	陸録	5.6	5.3			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
760	26歳	118-B	陸録	0.3	5.2			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
761	26歳	120-B	陸録	0.0	7.2			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
762	26歳	121-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
763	26歳	118-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
764	26歳	120-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
765	31歳	110-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
766	31歳	110-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
767	31歳	112-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
768	31歳	113-B	陸録	12.4	5.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
769	31歳	113-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
770	31歳	113-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
771	34歳	110-B	陸録	34.0	64.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸録り本録、ナリ、極端内
772	34歳	110-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
773	34歳	111-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
774	34歳	112-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
775	34歳	113-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
776	34歳	113-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
777	34歳	113-B	陸録	23.8	47.9			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
778	34歳	113-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
779	34歳	113-1	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
780	34歳	113-B	陸録	27.0	13.3			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
781	34歳	113-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
782	34歳	113-B	陸録	10.6	6.6			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
783	34歳	113-B	陸録	4.4	3.0			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
784	34歳	110-B	陸録	7.6	6.9			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
785	34歳	111-B	陸録	3.4	10.7			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
97	28歳	111-1	陸録	3.4	10.7			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
786	35歳	110-B	陸録	2.0	20.5			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
787	35歳	110-B	陸録					青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
788	35歳	110-1	陸ナリ	29.0	20.5			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
789	35歳	110-B	陸録	0.39	4.2			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
790	36歳	110-B	陸録	17.0	11.0	13.3		青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
791	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
792	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
793	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
794	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
795	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
796	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
797	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
798	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
800	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
801	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
802	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
803	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
804	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
805	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
806	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
807	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
808	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
809	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
810	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
811	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
812	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
813	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
814	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
815	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
816	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
817	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
818	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
819	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
820	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
821	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
822	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
823	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
824	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
825	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
826	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
827	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
828	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
829	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
830	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
831	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
832	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
833	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
834	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
835	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
836	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
837	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
838	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
839	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
840	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
841	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
842	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
843	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
844	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
845	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
846	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
847	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
848	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
849	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
850	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
851	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
852	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ、浪江ナリ
853	36歳	110-B	陸録	17.4	13.1			青	良好	暗紫色	内陸ナリ、外陸ナリ

図版・遺物No.	層位	地区	分類	口径	器高	器径	その他	粘土	焼成	色調	調査等
818	20層	J-12-V	漆器		45.0	6.5		密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、指オケム、底面未調査
819	40層	J-12-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質
820	40層	J-12-V	漆器	26.6	(19.7)			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ミダシ
821	40層	K-14-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
822	40層	K-15-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、指オケム
823	40層	J-13-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
824	40層	J-13-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
825	40層	J-13-B	漆					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
826	40層	J-13-B	漆器		(19.7)			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、指オケム、底面未調査
827	40層	K-14-I	漆		45.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質、ミダシ(未調査)
828	40層	K-10-V	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
829	40層	K-10-V	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
830	40層	J-13-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質
831	40層	J-12-B	漆器	22.4	46.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、ミダシ、外面ナマリ
100	832	41層	J-12-B	漆器	20.6	44.0		密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質、底面未調査
833	41層	J-10-I	漆器					やや粗	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質、底面未調査
834	41層	K-11-I	漆器	12.8	45.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査、良質
835	41層	J-12-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面良質、底面未調査
836	41層	J-11-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
837	41層	K-12-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
838	41層	J-11-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
839	41層	J-9-B	漆					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ミダシ
840	41層	J-12-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
841	41層	J-12-B	漆器	20.6	46.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面ナマリ
842	41層	J-12-B	漆器	20.6	46.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
843	41層	J-9-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
844	41層	J-10-B	漆	16.5	44.0			やや粗	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
845	41層	J-12-B	漆器		44.0	6.6		密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
846	41層	J-10-I	漆器		41.0	6.0		やや粗	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
847	41層	J-10-B	漆器	27.0	5.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面ナマリ
848	42層	K-14-B	漆器	26.6	46.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面ナマリ
849	42層	K-15-I	漆器	19.5	49.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面ナマリ
850	42層	K-17-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
851	42層	J-14-B	漆					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面ナマリ
852	42層	J-17-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
853	42層	K-14-B	漆器	17.0	7.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
101	854	43層	K-14-B	漆器				密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、ミダシ
855	43層	J-17-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、ミダシ、底面未調査
856	43層	K-18-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
857	43層	K-18-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
858	43層	K-14-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
859	43層	K-17-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
860	43層	J-14-I	漆器	17.0	6.0			密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ、底面未調査
861	43層	K-14-B	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ナマリ
862	43層	K-13-I	漆器					密	良好	黒褐色	内面ナデ、外面ミダシ

2. 石器

A. はじめに

内田貝塚からは、18年度調査分で28点、19年度調査分で11点の計39点の石器が出土している。石器種類の内訳では、石鏃2点、スクレイパー類3点、剥片類11点（ユーズド・フレイク2点を含む）、敲石2点、石皿1点、砥石3点（うち2点は金属器用）、磨製石斧16点、石冠1点であり、この他に大型の自然礫21点が出土している。本報告は18年度調査資料について扱うものであるため、個々の資料の観察については18年度調査分のみを扱うこととするが、石器群として考える上では19年度調査分も含めて触れることとする。

報告の方針としては、技術形態学的視点に基づいて分析を行い、全体を押圧剥離系列、直接打撃系列、使用痕系列、複合技術系列の4系列に大別して詳述する（大工原1996）。なお縄文時代の石を素材としたものとして玉類も存在するが、これらは別項において扱っている（第4章5を参照のこと）。

B. 個別の観察

18年度調査では、石鏃1点、スクレイパー類3点、剥片類7点、敲石2点、石皿1点、砥石3点（うち2点は金属器用）、磨製石斧10点、石冠1点の28点の石器が出土している。この他に、自然礫が10点ある。

押圧剥離系列としては、石鏃とスクレイパー類が出土している。

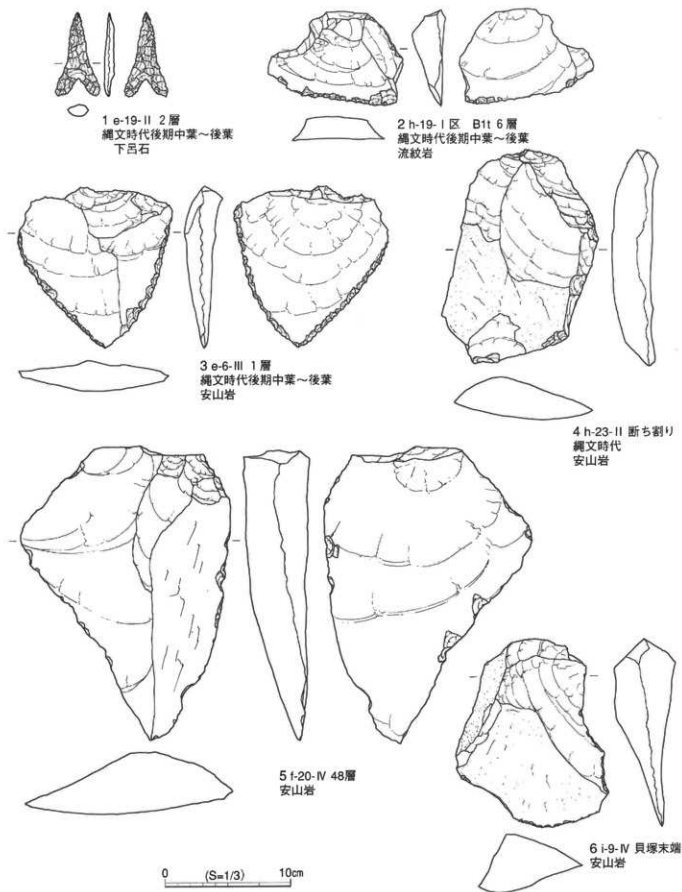
石鏃（1）は、比較的長身の鏃身であり、平面形は凹基無茎鏃である。両側縁から丁寧な押圧剥離が加えられている。下呂石製であり、同一層からは元住吉山Ⅰ式～宮滝式までの土器が出土していることから、これらの時期に伴うものと考えられる。

スクレイパー類は3点出土しており2点を図示した（2・3）。2はやや厚みのある剥片の縁辺部に、片側連続剥離により刃部を作出している。石材は珪質化した流紋岩である。3は逆三角形を呈する剥片の縁辺に、両側からの連続した押圧剥離によって刃を形成したスクレイパーである。後述する剥片類と同じ安山岩製であり、比較的整った形状を呈しており、縁辺の押圧剥離も丁寧である。いずれも元住吉山Ⅰ・Ⅱ式～宮滝式の土器に伴って出土しており、こうした時期に属するものと考えられる。

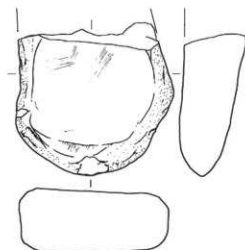
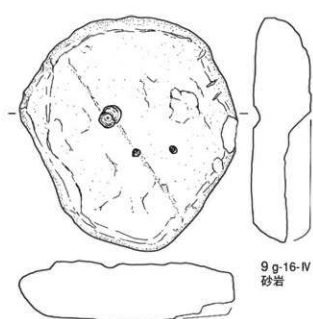
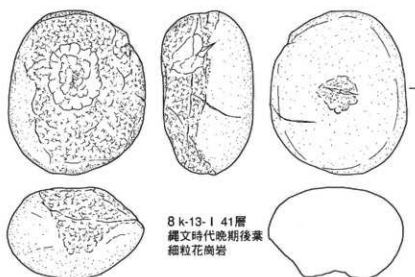
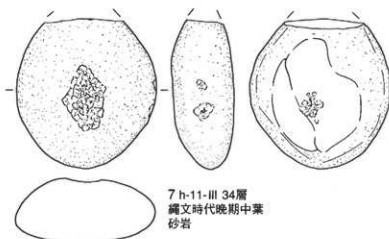
直接打撃系列の石器としては、剥片類のみが出土している。なお、直接打撃系列の典型的石器である打製石斧は、本遺跡からは出土していない。

剥片類はすべて、直接打撃により作出された安山岩の大型剥片であり、一部をそのまま使用、あるいは部分的にリタッチ状の加工を加えて利用している。7点出土し3点図示した（4～6）。4は左側縁部を部分的に二次調整しているが、明確な使用はみられない。5は左右側縁に使用痕がみられ、部分的に加工も行っている。6は左下から下側縁辺部に使用痕がみられる。断ち割りや貝層末端などからの出土のため明確な時期決定はできないが、縄文時代後期中葉から晩期まで幅広い時期に用いられたものと考えられる。

使用痕系列の石器としては、凹石・石皿・砥石が出土している。



第102図 石器実測図-1 (1/3)



0 (S=1/3) 10cm

第103図 石器実測図-2 (1/3)

凹石は、2点出土している（7・8）。7は正・裏面の中央部分にアバタ状の敲打痕がある。正面の敲打痕は使用によりかなり深く抉れており、裏面が平坦であることを考慮すれば、台石として利用された可能性も考えられる。裏面は中央部分に磨面が二面以上広がっており、その中央部分に浅い敲打痕がみられる。また左側縁にも敲打痕があるが、これは使用によるものではなく、指掛けの可能性も考えられる。細粒花崗岩製であり、出土層序から晩期中葉・稲荷山式に属すると考えられる。8も正・裏面の中央部分に敲打痕を有する凹石である。この凹石も正面の敲打痕は深く、かつその周囲を含む正面のほぼ全域に敲打痕が広がっている。やはり裏面が比較的平坦であるため、台石としての利用が想定される。また裏面の敲打痕は「平ノミ状」（小島1997）とされるものであり、裂状に裂けた形状で断面がV字状となる敲打痕であり、両極技法との関連が指摘されている（小島前掲）。細粒花崗岩製であり、出土層序から晩期後葉・西之山式に属するものと考えられる。

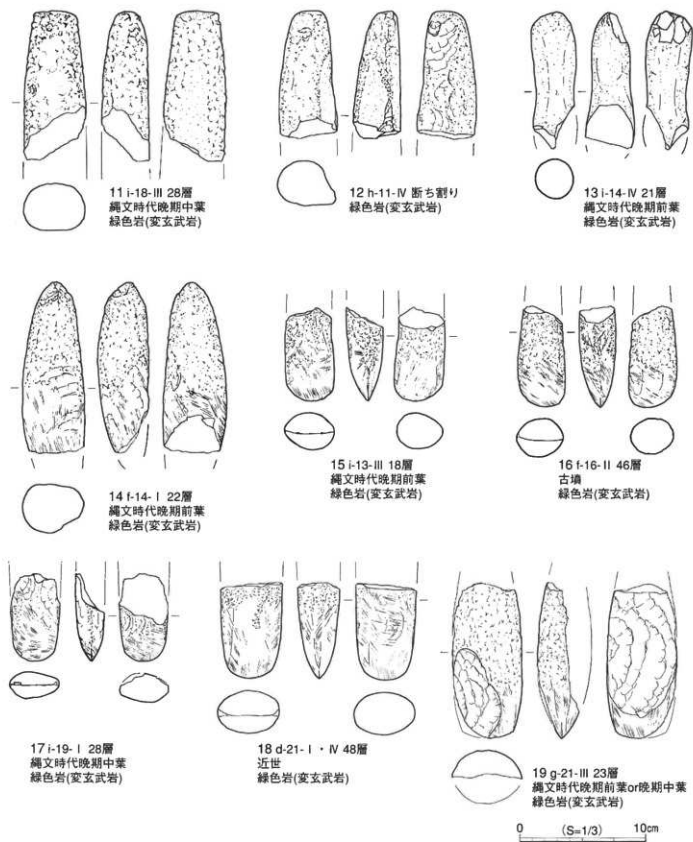
9は石皿としたが、研磨や磨り潰しなどによる磨面は存在せず、4ヶ所の敲打痕のみを有しており、台石とした方がよいであろう。敲打痕はいずれも錐状のもので回転穿孔して形成されたものである。砂岩製である。

10は砥石であり、正面中央部に線状痕を伴う研磨使用面がみられることから平砥石と考えられる。砥面は複数からなるものと考えられるが、下端で2面確認できたのみであり、中央部分の砥面は複数面からなること以外は不明である。花崗岩製であり、出土層序から後期中葉・元住吉山Ⅰ式期～後期後葉・宮滝式期に属すると考えられる。砥石としては、この他に近世期以降のものと考えられる金属器用砥石が2点出土している。

複合技術系列の石器としては、磨製石斧・石冠が出土している。

磨製石斧は9点出土しており、今回最も多く出土した石器器種である。すべて豊川流域で産する緑色岩（塩基性岩）製の乳棒状磨製石斧であり、刃部以外の部分は研磨しておらず敲打痕を残す。いずれも破損資料であり、その内訳は基部片5点、刃部片4点である。このうち8点を図示した（11～19）。11～14は基部片である。11は基部部をやや平坦に作り出し、平面形では定角式磨製石斧のようであるが、胴部断面は楕円形であり乳棒状磨製石斧に含まれる。12は左側面に自然礫面を残す。13は比較的丁寧な敲打で仕上げられており、胴部中央部分がやや括れ独鈷状石器とも考えられるが、括れが明瞭でなく張り出し部分も弱いことから磨製石斧基部とした。14は自然の棒状礫を利用しており、下端に刃部研磨部分が残る、唯一全体形状を知ることができる。15～18は刃部片である。15～17はやや小型の磨製石斧であるが、いずれも平面形において片側のみが減る斜刃気味である。特に15・16は右側縁が片減りした斜刃であり、胴部もやや弧状気味になる。16には刃部右側に研磨面の重複が顕著であり、刃部欠損などの後に刃部の研ぎ直しが行われたものと考えられる。これらは小型であるが、斜刃のものが多くことから、伐採斧など縦斧として利用したものと考えられる（佐原1977）。18・19は一般的な大きさの刃部片であり、刃部はいずれも円刃である。これらは出土した層序から、晩期前葉～中葉に属する資料と考えられる。

20は三角柱を呈する石冠である。各面は丁寧に磨かれており、上辺となる部分は特に刃部状に研ぎ出されている。上面の反対にあたる平坦面には敲打痕がみられる。正面形は右側がやや下がった形状である。石冠については、一般に後晩期に出現するとされてきたが（中島1983）、後期前半を中心に



第104図 石器実測図-3 (1/3)



第105図 石器実測図-4 (1/3)

盛行する一群と、晩期以降に盛行する一群の存在が知られている（増子1999）。後期前半に属する一群は、「烏帽子形石製品」として別系統の石製品として位置づけられることが指摘されている（西脇2007）。本事例も、この烏帽子形石製品に類似する形状であり、その時期も出土層序から後期後葉・宮滝式期と考えられ、やや時期が下がるものの、後期前半に盛行する烏帽子形石製品との系譜で考えられる石製品であると考えられる。石材は凝灰岩である。

第3表 内田貝塚・平成18年度調査分石器一覧表

番号	採出番号	器種名	地区名	遺構名	層位	残存部位	計測値(cm, g)			石材	技法	備考
							長さ	幅	厚さ			
1	1	石鏃	e-19-II		2層	定形	3.3	1.7	0.5	下石	両面より押圧剥離。	後身鏃。
2	2	ステレイバー	b-19-I	B11	6層	定形	3.5	3.2	1.3	流紋岩	片側直線行撃により刃部成形。	R/Pに近い。
3	3	ステレイバー	e-6-Ⅱ		1層	定形	6.4	6.2	1.2	安山岩	両面より押圧剥離。	
4	-	ステレイバー	B21	SD-6		定形	10.0	3.8	1.7	砂岩	片側直線行撃により刃部成形。	片側断面を残し、やや風化。
5	4	剥片	b-25-II	新石器		-	8.7	5.4	1.6	安山岩	片側直線行撃により刃部成形。	断面の一端に片側から押圧剥離により刃部成形。
6	5	剥片	c-30-Ⅱ	貝塚	48層	-	11.6	8.3	2.3	安山岩	刃部に押圧剥離。	下面に44/56分付番
7	6	剥片	b-17-Ⅱ	B11	26層	-	7.5	6.2	2.6	安山岩	刃部に押圧剥離。	
8	-	剥片	b-17-Ⅱ	B11	26層	-	3.7	4.7	1.0	ヤスカイト		下面に44/56分付番
9	-	剥片	e-19-II	B11	21層	-	5.9	3.3	1.0	安山岩		下面に44/56分付番
10	-	剥片	e-20-Ⅱ		7層	-	5.5	4.1	0.4	泥岩		下面に44/56分付番
11	-	剥片	e-20-Ⅱ		7層	-	5.0	5.4	0.5	泥岩		下面に44/56分付番
12	7	砥石	b-11-Ⅱ		34層	略定形	(11.7)	11.0	5.0	砂岩	正面にアバタ状磨打痕あり。	焼熱、台石の可能性もあり。
13	8	砥石	b-13-I		41層	定形	12.8	10.7	7.4	緑泥片岩	正面に大型の磨打痕、裏面にアバタ状磨打痕。	台石の可能性もあり。
14	9	石鏃	a-16-Ⅱ	新石器		略定形	18.4	17.3	4.8	砂岩	前面中央平面。	
15	10	砥石	b-19-Ⅱ		1層	1/2塊	(12.6)	12.6	3.5	花崗岩	上面平ら面。	下面に44/56分付番
16	11	磨製石斧	b-18-Ⅱ		28層	基部片	(11.7)	6.9	3.7	安山岩	磨打痕を残す。基部磨打痕による磨面。	
17	12	磨製石斧	b-11-Ⅱ	新石器		基部片	(10.6)	4.6	3.8	安山岩	自然断面。磨打痕を残す。基部自然断面。	
18	13	磨製石斧	b-14-Ⅱ		21層	基部片	(10.7)	(3.6)	(3.8)	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。
19	14	磨製石斧	b-14-I		22層	基部片	(13.5)	4.7	4.0	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。
20	15	磨製石斧	b-13-Ⅱ		18層	刃部片	(7.3)	3.9	3.0	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	小型磨製石斧。斜刃、使用磨面。
21	16	磨製石斧	b-16-Ⅱ		46層	刃部片	(7.9)	3.7	2.9	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	小型磨製石斧。斜刃、使用磨面。
22	17	磨製石斧	b-19-I		28層	刃部片	(8.8)	3.8	2.3	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	小型磨製石斧。刃部。
23	18	磨製石斧	b-21-I・Ⅱ	1層	48層	刃部片	(7.6)	4.8	3.3	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	刃部。
24	19	磨製石斧	a-21-Ⅱ		23層	刃部片	(12.2)	5.4	(3.3)	安山岩	磨打痕を残す。基部自然断面。基部中央に欠け。	刃部。
25	-	磨製石斧	b-20-Ⅱ		5層	基部	(8.4)	4.8	3.7	安山岩	磨打痕を残す。	角状磨面を有する。基部に磨打痕あり。
26	20	石鏃	e-0-I		11層	定形	7.0	8.2	5.8	凝灰岩		金箔用(古型型以降)。
27	-	砥石		表層	1/2塊	(10.0)	4.1	3.7	凝灰質砂岩	4面に波状磨面。	金箔用(古型型以降)。	
28	-	砥石	b-19-Ⅱ	貝塚	48層	略定形	(8.7)	3.5	2.4	緑色凝灰岩	断面は波状磨面。両面には切磨痕の断面あり。	金箔用(古型型以降)。

C. 石器群としての位置づけ

以上のように、18年度調査出土の石器について既観してきたが、縄文時代の石器総数は剥片類を含めて26点（近世以降の砥石2点を除く）と極めて少なく、特に縄文時代後晩期の愛知県内の遺跡で最も多い器種である石鏃は1点のみ

と極端に少ない。これは、石鏃を含めた押圧剥離系列の石器が、石鏃の他にはスクレイパー類2点のみであり、使用痕のある刃器（ユーズド・フレイク）を含めその出土が少ないことも関連する。その一方で、最も多い器種が10点と全体の1/3以上を占める磨製石斧である点も、他の同時期の遺跡とは大きく異なる状況である。

そこで内田貝塚全体の傾向を把握するため、18年度調査に19年度調査資料を加味して、内田貝塚における石器群の位置づけについて検討を行う。19年度調査資料は、磨製石斧6点、石鏃1点、剥片類4点（うち1点珪質凝灰岩製、3点安山岩製）の11点が出土しており、平成18・19年度調査資料全体では37点の石器が出土している（第2表）。2ヵ年の調査を加味しても、最も多い石器器種は16点出土した磨製石斧であり、全体の4割強を占める。ついで多い石器器種は、安山岩を直接打撃して得られた剥片が11点（29.7%）と多く、スクレイパー3点（8.1%）、砥石1点（2.7%）と続く。これらのうち、砥石は面砥石であり、磨製石斧の刃部の研ぎ直しに用いられたと考えられ、磨製石斧に関連する石器器種であることは明らかである。したがって砥石を加味すれば、実に内田貝塚出土石器の半数近くが磨製石斧とそれに伴う資料であったこととなる。

他の石器器種をみると、石鏃は2ヵ年通じて2点と少なく、押圧剥離の施されたスクレイパー類も3点と少ない。凹石については、7のように研磨使用面をもつものもあるが、基本的には深い敲打痕に対して扁平な面をもつ大型のものであり、台石としての使用が想定される。また石皿としたものも円錐状の凹みを有する台石の的なものであり、いずれも堅果類の圧潰しなどに用いられた石器とは考えにくく、出土点数の少なさを考慮すれば、植物質食糧の積極的な利用の様相は見出しにくい。

したがって、内田貝塚の石器の在り方からは、木材伐採を頻繁に行い、狩猟や植物質食料の利用などの少ない生業の在り方が想定される。木材伐採は、磨製石斧の基部において中型の乳棒状磨製石斧が多いことや、刃部において小型でも斜刃であることなどから、木材加工ではなく伐採や打割などに用いたものであると考えられる。それは周辺の樹木を伐採したものか、流木等を含めた木材を打割したものかは不明であるが、内田貝塚から出土した遺構・遺物と関連させれば、貝層中焼土に用いられた燃料材を得る目的で利用された可能性も十分に想定されよう。

第4表 内田貝塚における出土石器数一覧

系列	石器器種	18年度	19年度	計	
押圧剥離	石鏃	1	1	2	5.4%
	スクレイパー類	3		3	8.1%
直接打撃	剥片（直接打撃）	7	4	11	29.7%
使用痕	凹石	2		2	5.4%
	石皿（台石）	1		1	2.7%
	砥石	1		1	2.7%
	磨製石斧	10	6	16	43.2%
複合技術	石製品（総計）	1		1	2.7%
計		26	11	37	100.0%

D. 牟呂貝塚群における縄文時代石器の在り方と内田貝塚出土石器

内田貝塚を含む牟呂貝塚群は、ハマグリ・マガキなどの特定の貝種からなる巨大な貝層に対して土器・石器といった人口遺物や獣骨・魚骨といった食糧残滓が極めて僅かしか出土せず、貝塚の多い東

第5表 牟呂貝塚群における出土石器一覧表

番号	遺跡名	時期	貝塚立地	石器																参考文献
				押圧剥離				直接打撃				使用痕				複合技術				
				石鏃	石匙	スクレイパー	リフ	剥片	打製石斧	磨製石斧	石核	石片	磨石	石皿	磨石	磨石	磨石	磨石		
				石鏃	石匙	スクレイパー	リフ	剥片	打製石斧	磨製石斧	石核	石片	磨石	石皿	磨石	磨石	磨石	磨石		
1	坂津寺貝塚	中期中葉～後葉 地形安定・古木	台地斜面							2	1						3	小畑2001・ 豊後市教育2000・2002		
2	内田貝塚	後期中葉～晩期中葉	砂地上	2		3	2	9			2		1	1	16	1	27	本報告		
3	水神第1貝塚	晩期前葉～中葉	砂地上	2		1	16	21	3	11		3	3	1		9	60	芳賀編1997		
4	水神第2貝塚	晩期後葉～末	砂地上	2		3	3	2	1	1	1	2	1		12	1	29	岩瀬編1998		
5	大西貝塚	後期後葉～晩期後葉・末	砂地上	2		2	10	1	7	1	1	1	3		31		40	岩瀬編1995・1996		
6	さんまい貝塚	晩期中葉	砂地上	1			1	2									4	岩瀬編1998b		
7	志村崎神社貝塚	後期末～晩期中葉	台地端部					1								3	1	6	岩瀬ほか1991	
A	平井松尾山貝塚	晩期中葉～後葉	台地縁部	129	2	16	3	1	31	7		9	1	4	4	27	3	707	杉山ほか1964・後藤1969・ 中村ほか1992	
B	大炊屋貝塚		自然堤防	6	3	17		3		2	14	2			6	9	62	杉山ほか1964・ 岩瀬ほか2003		
C	伊川津貝塚	後期後葉～晩期中葉	礫地上	131	1	10	16		13	4	21	31	6	7	30	32	6	734	小野田ほか1972・88・95	

海地方においても特異な貝塚群である。こうした状況から採貝活動に特化した貝塚とされ、調査担当者である岩瀬彰利氏によって、「干し貝加工を行っていた」貝塚として注目された（岩瀬1989）。さらに岩瀬氏は、牟呂貝塚群を「加工場型貝塚」と再定義し、各貝塚における貝類・鳥獣類・魚骨の割合、炉址、土器、石器などについて詳細に比較検討をし、牟呂貝塚群を中心とした地域生業の復原を行っている（岩瀬2003）。この中で岩瀬氏は石器についても触れ、土器と同様に「石器も稀少であるが、磨製石斧のみは各貝塚から出土しており、剥片時の燃料である木材の切断用具として必要であったことが窺われる」としている。この岩瀬氏の指摘は、内田貝塚における磨製石斧利用にみられる特異な石器利用の在り方に合致しており、内田貝塚を含めた牟呂貝塚群全体において磨製石斧の利用が盛んであったことを表している。

これを踏まえ、内田貝塚を含めた牟呂貝塚群と、その周辺にある同時期の遺跡間とで、石器利用の在り方に差が生じるか否かを検討してみたい（第5表参照）。はじめに、牟呂貝塚群内の在り方を、岩瀬氏の作業をふまえ再検討してみる。岩瀬氏の指摘のように、各貝塚における石器の出土は少なく、剥片類を含めても最も多い水神第1貝塚においても全体で60点しか出土していない。特に石鏃を含めた押圧剥離を加える剥片石器類の出土は少なく、刃器の利用が低調であったことを示している。その一方で、安山岩などの礫に直接打撃を加えた礫器あるいは石核や、これと同材の剥片類が一定量出土しており、剥片石器の少なさを補う粗製の刃器として利用していた可能性も考えられるが、これを含めても牟呂貝塚群以外の遺跡に比べると圧倒的に少ない。

石斧については、磨製石斧が一定量みられる点と、打製石斧が少ないながらも出土する点は注目されよう。磨製石斧はいずれも乳棒状磨製石斧であり、全長が10cm以上となる中型以上の磨製石斧である。刃部が円刃・斜刃であることを加味すれば、主に伐採斧に用いられたことが想定される。磨石・蔽石類および石皿については、植物質の圧潰に特化した磨石や石皿がほとんど出土せず、凹み状の蔽打痕を伴う蔽石（凹石）や端部に蔽打痕のある叩石が多い。これらは堅果類の殻割など植物質食糧加工に用いられたというよりも、他の蔽打行為に用いられた石器群の可能性が高い。

利器ではないが、小型石棒類や内田貝塚で出土している石冠など石製品の出土は、それらに付随する儀礼行為が牟呂貝塚群で行われた可能性を有しており、注目される要素である。しかし、同時期の周辺遺跡と比較するとその数量は圧倒的に少なく、実態についても水神第2貝塚では石刀胴部片、市杵嶋神社貝塚でも端部片のみの出土であり、積極的に儀礼行為を行ったとは考えにくい。その一方で、内田貝塚出土の石冠は、完形品での出土であり注目される。県内における石冠の出土は、30遺跡60点の出土が知られており、東三河に多く特に貝塚を含めた海岸部に多いことが指摘されている（齊藤2002）。内田貝塚例に類似する資料も豊川市麻生田大橋遺跡や、田原市吉胡貝塚・川地貝塚などで出土しており、同様の傾向が指摘できよう。さらに内田貝塚例が後期前半に出現する烏帽子形石製品に承襲がもたらされ、内田貝塚においても後期中葉～後葉の貝層中から出土していることから、「加工場型貝塚」が盛行する前段階にあたり注目される。

以上のように、内田貝塚の石器群は調査面積に比して総出土石器点数が少ない点で、牟呂貝塚群内の他の加工場型貝塚と同様の在り方を示している。特に一般の後・晩期遺跡で大量に出土する石鏃をはじめとする剥片石器類や、植物加工に用いられる磨石・石皿が極端に少なく、その一方で伐採用の磨製石斧が一定量みられる点が、内田貝塚を含めた牟呂貝塚群における石器の在り方である。そうした中で、後期後半の貝層中より完形の石冠が出土したことは、牟呂貝塚群が本格的に盛行する晩期後半以前の段階には、石冠を伴う儀礼行為が行われていたことも考慮され、注目される。

謝辞

資料調査の機会を与えていただいた、豊橋市教育委員会・岩原剛氏・贅元洋氏・岩瀬彰利氏に対し、衷心より謝意を表する次第である。また石器石材の同定については、愛知県埋蔵文化財センター・堀木真美子氏、一部の資料図化にあたっては、愛知学院大学大学院1年の吉田悠歩君にご協力いただいた。文末ながら記して深謝の意を表する。

〔引用・参考文献〕

- 岩瀬彰利2003「縄文時代の加工場型貝塚について－東海地方における海浜部生業の構造－」『関西縄文時代の集落・墓
地と生業 関西縄文論集1』189～205頁 六一書房
- 岩瀬彰利編1995「大西貝塚」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第19集 豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会
- 岩瀬彰利編1996「大西貝塚（Ⅱ）」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第29集 豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会
- 岩瀬彰利編1998a「水神貝塚（第2貝塚）」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第44集 豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会
- 岩瀬彰利編1998b「さんまい貝塚」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第46集 豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会
- 岩瀬彰利・小林久彦・水野季彦1991「市杵嶋神社遺跡（Ⅰ）」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第13集 豊橋市教育委員会
- 小島 隆1997「凹石・多孔石考」『三河考古』第10号 67～90頁 三河考古学談話会
- 齊藤基生2002「第3章 集成 第1節 特殊石器 3 石冠」『愛知県史 第1巻』693～697頁 愛知県
- 佐原 真1977「石斧論－横斧から縦斧へ－」『松崎寿和先生退官記念論文集』
- 杉原莊介・外山和夫1964「豊川下流域における縄文時代晩期の遺跡－稲荷山遺跡・五貫森遺跡・大蚊里遺跡・水神遺

跡の調査」『考古学集刊』2-3 東京考古学会

大工原 豊1996「縄文時代 (2) 石器」『考古学雑誌』第82巻第2号 26-36頁 日本考古学会

中島栄一1983「石冠・土冠」『縄文文化の研究』9 149-169頁 雄山閣

西脇対名夫2007「石冠とその類品」『縄文時代の考古学11-心と信仰-宗教的観念と社会秩序-』同成社

増子 誠1999「石製祭祀遺物の受容」『季刊 考古学』第69号 65-69頁 雄山閣

芳賀 陽編1997「水神貝塚」豊橋市埋蔵文化財調査報告書第36集 豊橋市教育委員会・牟呂地区遺跡調査会

3. 骨角器・貝製品

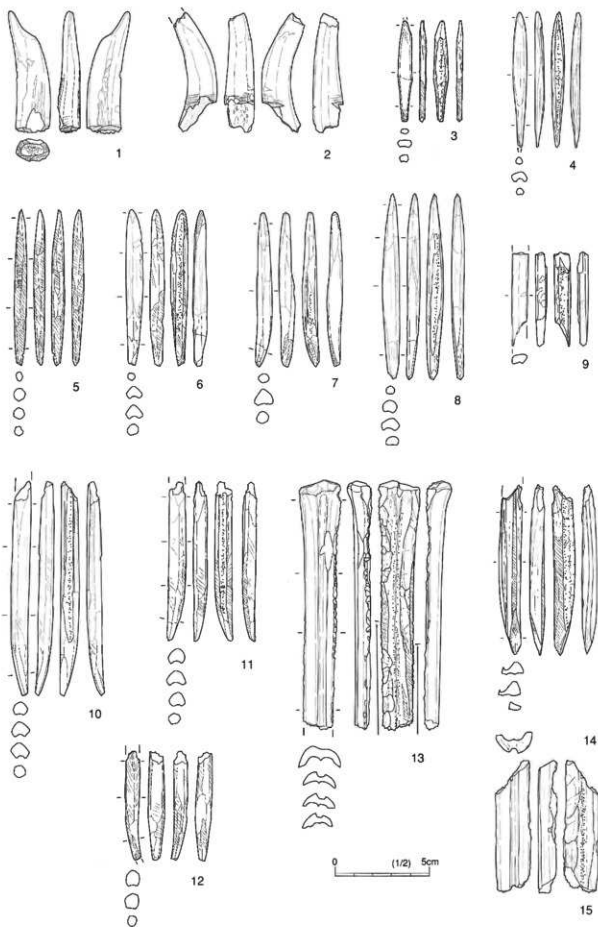
A. はじめに

内田貝塚では平成18年度・19年度で、骨角器が計58点出土している。この中で平成18年度調査分では49点出土しており、製品では点状刺突具類(針・鏃・ヤス)24点、扁平刺突具類(ヘラ)1点、骨刀1点、貝輪4点で、加工のある鹿角が3点、加工のある骨は16点である。これらの中で35点を図化した(第6表)。調査の結果、貝層別に形成時期の比定が行われており、この報告でも、それに従って時期比定を行った。ここでは、後期末伊川津式期形成までと、晩期前葉蜆線B式期以降と、大きく分けて報告を行う。

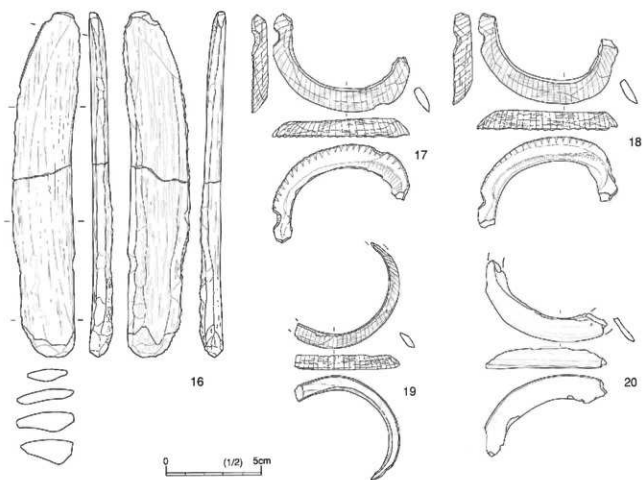
B. 縄文時代後期末までの資料(1~20・24)

1・2は加工のある鹿角である。1・2ともに鹿角枝の先端部分の周囲を連続して擦り切りを行い折り取っていると考えられ、折り取りの様子は1に顕著に残されている。3~12・24は点状刺突具類である。3は基部端が欠損しているものの長さ5.3cmを測り、基部の作り出しが認められるものである。シカ中手・中足骨などの管状骨製であると考えられる。4は長さが7.2cmを測り、基部の作り出しが認められるものである。5は長さ8.2cm・幅0.6cmを測る。材の凹凸部が器面には認められず、最大厚の断面形状は円形を呈する。6も長さが8.2cm・幅は0.9cmで、器面に骨溝が残されているものである。7は長さが8.2cmを測り、材の部位によるか、基部側がやや湾曲した形状を呈する。8は長さ9.9cm・幅0.9cmで器面に骨溝が残されているものである。9~12は欠損品で、全形を窺うことができないものである。しかし10は、現存で長さ11.3cmを測り、本来、長い形状の刺突具であったものと考えられる。24は先端部が欠失しており、全形を窺うことはできないものの、形状および法量は23と類似しているものと考えられる。

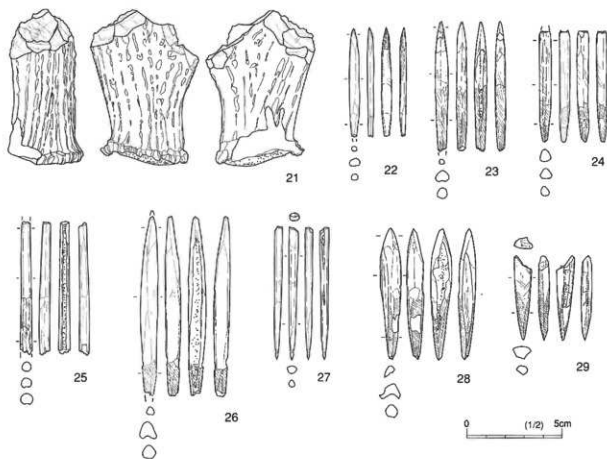
13は扁平刺突具類のなかでも器形全体が扁平でヘラと考えられるものである。刃部側が欠失しているものの、現存で長さ13.2cmを測る。シカ中足骨を側面から連続した敲打により半截状に切断しているようであり、切断後にも敲打調整を施したあと、裏面を中心に部分的に研磨が施されている。現存している全形の刃部側に向かって縁辺が磨減しており、これが使用によるものと考えられるか。14・15は加工された骨である。14はシカ中足骨の加工品である。骨溝に沿って擦り込みを入れようとした可能性があり、敲打・折り取りなどによる半截材にした後、研磨を施しているものである。欠損状態で長さが9.0cmあり、点状刺突具類の中でも長い刺突具に対応するものと考えられる。15もシカ中足骨



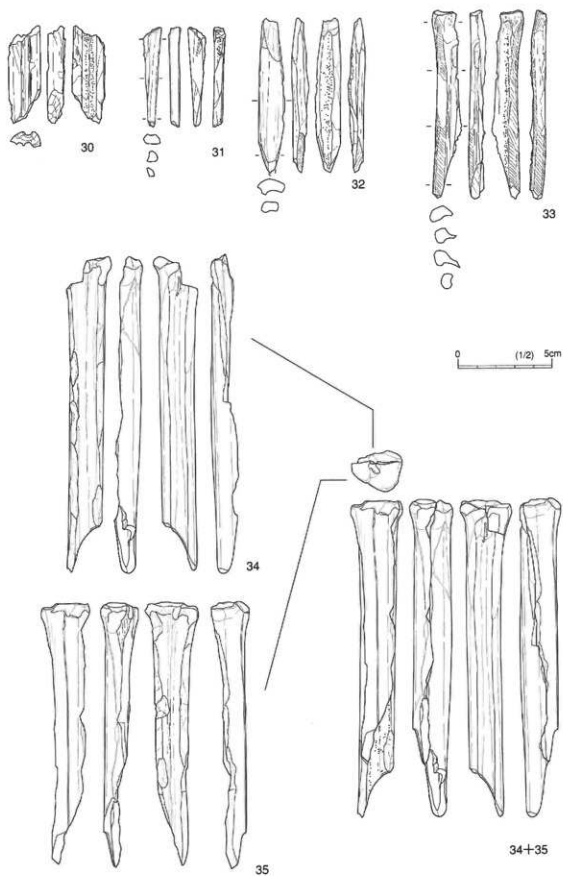
第106図 骨角器実測図一 (1/2)



第107図 骨角器実測図一2 (1/2)



第108図 骨角器実測図一3 (1/2)



第109図 骨角器実測図一4 (1/2)

の加工品で、片側側面に連続した敲打を加えることにより、半載材が作出されたものである。16は鯨類骨製かと考えられる骨刀である。素材としては肋骨半載材を用いていると考えられ、長さは18.2cmを測る。図面下3分の1程度が柄部と考えられ、断面形状が一方に偏った形状を呈している。17~20は貝輪である。17・18は半環状である。加工は、内法面は敲打調整により行われ、表面には研磨調整が施されている。製作上の特徴としては、腹縁幅が1cm以上と広く、腹縁側両端に挟りが施されている点である。法量もほぼ近似で、両者ともベンケイガイ左殻を使用しており、同一地点・層から出土していることから、二点一組で使用されたものと考えられる。19・20は環状を呈するものである。19はベンケイガイ左殻を用いている。最終調整としては全面研磨が施されているが、この資料の特徴としては、内法面の稜が立つように研磨が施されていることと、裏面にまで研磨が施されている点である。腹縁幅は7.2cmと17・18に比べ狭い。20はチョウセンハマグリかと考えられる右殻を使用している。内法面に複数回の敲打により調整されている状態である。

C. 縄文時代晩期前半の資料 (21~23・25~35)

一部土層などの時期比定ができなかった資料も含めて、ここで報告する。21は加工のある鹿角である。落角右側の角幹部および第一枝部分の周囲を敲打したのちに折り取ることにより切断を行っている。22・23・25~29は点状刺突具類で、いずれもシカ中手・中足骨を中心とする管状骨製である。22は長さ5.8cmを測り、細身で茎部の作り出しが認められる。23は若干欠損しているものの、長さが6.9cmを測り、茎部の著しい作り出しは認められない。25は細身でやや長い刺突具になる可能性がある。26は基部端が若干欠失しているものの、長さが9.5cm・幅0.9cmを測り、点状刺突具類の中では、長さ・幅がやや大きい部類のものである。27は細身で、使用によるためか端部がより細身になっている。28は長さ6.1cmを測り、茎部の作り出しがやや認められるものである。器面には材の骨溝部分が認められ、中足骨製と考えられる。30~35は加工のある骨である。30はシカ中足骨で半載状態を呈する。骨溝内は若干縦方向に擦られた部分があるものの、半載は中足骨の側面側を切断するように行われており、資料の範囲内では明確な敲打などの打点は観察できなかった。31は細片化した骨で、やや三角柱状を呈するものである。器面には敲打などによる作出の様子が観察できる。32はシカ中手・中足骨の半載材を加工したもので、敲打などによる半載および端部の切断および調整後、端部側面を中心に研磨が施されている。点状刺突具類の製作途上のものと考えられ、一端部が若干欠失しているものの長さ8.2cm・幅1.3cmを測り、ほぼこれに近い法量の製品を製作する意図があったものと考えられる。33は加工された骨片である。シカ中足骨の骨溝部分に擦痕が認められ、擦り切りののち折り取りによる切断が行われた可能性もある。切断後器面全体に研磨調整を施している。34・35はシカ中手骨の接合資料である。骨溝のある面を正面とすると、側面に均等なピッチ（現資料では3から4回）で連続して敲打を行い、半載材を得ていたものと考えられる。近位端などからの縦方向の敲打はこの事例では認められない。

E. 総括

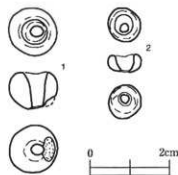
本貝塚の特徴は、製品として鹿角製が出土していないこと、点状刺突具類では茎部が作り出されて

おりかつ短めの刺突具が多いこと、ベンケイガイ製貝輪3点ともが東海地域の中では特異なこと、鯨骨製かと考えられる骨刀が出土していること、が挙げられる。総合的な考察については、19年度調査分報告とあわせて言及したい。

4. 玉 (第110図1・2)

石製の玉が2点出土している。成分分析 (第102集参照) によれば、いずれも蛇紋岩製である。

1は、h-21-IVの断ち割り26層出土で、出土層位の認定時期は稲荷山式である。径約12mm、高さ (長さ) 9.5mm、重さ1.9gで、基本的に球状を呈し、丸玉と呼んで違和感はない。色調は、やや青味を帯びた濃緑から淡緑色で、白色・乳白色の結晶 (2~3mm径) が斑点状に混じる。表面には、淡灰褐色の被膜状の付着物が部分的に残るせいか、光沢は鈍い。稜線を図示できるほどではないが、研磨による球面は一樣ではなく、多数の球面の



第110図 玉実測図 (1/1)

連続である。主穿孔面を上面と呼ぶと、上面の平坦面は幅狭く、微妙に波打っている。上面側の穿孔口径は6mm、底面側の口径は3mmである。底面径は5mm弱で、中央に向かって凹んでおり、片面穿孔の貫通による剥離面を研磨仕上げたものと考えられる。底面穿孔の脇には、白色結晶を中心とした剥離欠損が1か所あるが、製作以降の比較的新しい打撃によるものと思われる。欠損面には研磨は見られず、磨滅も見られない。穿孔内には、横方向の回転痕が見える他、全体がいびつな螺旋状を呈し、穿孔軸が一定でなかったことがわかる。

2は、f-15-Iの2層出土で、出土層位の認定時期は蜷塚K式~宮滝式である。径8~8.5mm、高さ4.8mm、重さ0.4gである。色調は1に似るが、白色の結晶部分が目立つ。上面は、研磨が加えられて光沢を持つが、細かな凸凹が目立ち、総じて凹面を成している。底面は緩やかな球面で、側面とは不明瞭な稜線を介して連続する。側面に複数の球面の連続である。穿孔は、内部を半球状に抉っており、底面側の孔の周囲の小さな凹面は、片面穿孔による貫通剥離痕を研磨したものと推定される。

2点とも、素材・製作技法が共通しており、形状の違いは、原材料の大きさ・形態に規制されたもので、丸玉 (または小玉) と捉えて良いものと考えられる。2点が、製作時点から関連があった可能性も考えられるが、証明は困難である。

蛇紋岩は、愛知県内でも産出するというが、愛知県を含む東海4県において縄文時代後晩期の玉類生産遺跡は確認されていない [加納他2001]。愛知県内の石製玉類は、翡翠製が24遺跡56点、翡翠以外の石製が35遺跡53点把握され、これらの大半は、後期後半~晩期のものと捉えられている [伊藤2005a・b]。後期後半には、新潟県糸魚川付近で産出する翡翠製の玉が、東北地方の竈付土器の西方への伝播に伴って北陸経由または信州経由で伊勢湾沿岸にも搬入されたと考えられる。蛇紋岩製の玉は、緑色の貴石として翡翠と同様に扱われたものであろう。竈付土器様式に続いて、晩期前半には大洞系 (亀ヶ岡式) 土器様式が西日本との交流を担い、流通ルートも維持されていた。県内出土の縄

文時代玉類については、石質の特定に不十分な面を残すものの、蛇紋岩と表示されているのは、一宮市馬見塚遺跡、安城市神戸遺跡、豊橋市白石遺跡のみである〔伊藤2005b〕。これらの中には、内田貝塚と同様な丸玉は見られないが、出土遺跡の分布が、翡翠製玉類と同様に沿岸部に偏する点〔伊藤2005b〕は注意すべきであろう。県内の玉の出土状況については、遺構との関連など、玉が残置・埋納された時点の情報を伴わないものが大半である。一部は土坑から出土して、埋葬時に副葬あるいは装身されていた可能性が認められるが、500体をはるかに超える県内の後～晩期埋葬人骨調査例の大半が、玉類を伴わない状況からは、埋葬（墓）との繋がりは限定的であったと考えられる。

本遺跡の玉2点が、堆積時期を特定される貝層から出土した状況は、玉の扱いを考える上で注意しておく必要がある。

加納俊介他 2001 「東海」『環東中国海沿岸地域の先史文化第4編』熊本大学考古学研究室

伊藤正人 2005a 「愛知県の縄文ヒスイ玉集成」『玉文化2』日本玉文化研究会

伊藤正人 2005b 「愛知県縄文時代の非翡翠石製玉類集成」『三河考古18』三河考古談話会